実務経験のある教員等による授業科目の一覧（愛玩動物看護学科）

科目名	実務経験	授業時数（h）
動物形態機能学Ⅱ	獣医師として動物病院勤務経験	30
動物形態機能学Ⅲ	獣医師として動物病院勤務経験	30
動物看護総合実習Ⅰ	獣医師として動物病院勤務	60
動物看護総合実習Ⅱ※	獣医師として動物病院勤務	60
動物看護総合実習Ⅲ※	獣医師として動物病院勤務	60
応用実験動物学Ⅰ実習※	企業勤務（研究部門）	45
応用実験動物学Ⅱ実習※	企業勤務（研究部門）	45
合計		330

※2年次・3年次科目のため、シラバスには記載なし

全ての成績評価は、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満

２０２３年度愛玩動物看護学科１年生

SYLLABUS

湘央生命科学技術専門学校

目　　次

＜必修科目＞

心理学・・・・・・・・・・・1
基礎数学・・・・・・・・・・2
基礎化学・・・・・・・・・・3
英語Ａ・・・・・・・・・・・4
英語Ｂ・・・・・・・・・・・5
生化学・・・・・・・・・・・6
検査機器総論・・・・・・・・7
就職講座・・・・・・・・・・8
動物愛護・適正飼養関連法規・9
生命倫理・動物福祉・・・・10
人と動物の関係学・・・・・11
公衆衛生学Ⅰ・・・・・・・・12
公衆衛生学Ⅱ・・・・・・・・13
愛玩動物学Ⅰ・・・・・・・・14
愛玩動物飼養管理・・・・・15
動物看護学概論・・・・・・16
動物臨床看護学総論・・・・17
動物健康管理・・・・・・・18
動物入院管理・・・・・・・19
動物内科学Ⅰ・・・・・・・20
動物形態機能学Ⅰ・・・・・21
動物形態機能学Ⅱ・・・・・22
動物形態機能学Ⅲ・・・・・23
動物形態機能学Ⅳ・・・・・24
動物行動学・・・・・・・・25
動物病理学・・・・・・・・26
動物感染症学Ⅰ・・・・・・27
動物感染症学Ⅱ・・・・・・28
動物感染症学Ⅲ・・・・・・29
微生物学実習・・・・・・・30
動物愛護・適正飼養実習Ⅰ・31
動物臨床検査学実習Ⅰ・・・32
動物内科看護学実習Ⅰ・・・33
動物形態機能学実習・・・・34
グルーミング実習Ⅰ・・・・35
動物看護総合実習Ⅰ・・・・36

科目名	心理学	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	理論に裏付けされた質の高い技術を身につけるために必要な、科学的かつ論理的な思考力を育む。人のために尽くす思いやりの心や優しさといった人間性を磨くため、心理学の基礎を学び、人間を理解しようとする際の一助となる視座を得る。				
教育内容	講義、心理テスト、実習などを通して、こころの働きについて学びながら、自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションスキルを身につける。				
教科書・教材	プリント				
評価法	実習態度、試験、提出物、出席状況を総合的に評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	オリエンテーション	グループワーク	グループワーク（構成的グループエンカウンター）の目的を正しく理解し、積極的に取り組む姿勢を身につける。
2	心理学の歴史	心理学とは	現代心理学の始まりと領域について学ぶ。
3	情動と認知	情動と認知の相互作用	情動と認知の生理学的仮説、その相互作用について学ぶ。
4	記憶	憶える・忘れる	記憶の三つの働きと三段階について学ぶ。
5	行動	行動の生物的基礎	生得的な適応行動様式と初期経験について学ぶ。
6	学習理論	学習の基本過程 ヒトと動物の学習の違い	レスポンデント条件付け、オペラント条件付けについて学ぶ。ヒトと動物の学習の違いについて学ぶ。
7	実習	自己認知度スケール グループワーク	スケールを使い自己理解を深める。グループワークに積極的に取り組み、他者理解を深める。
8	発達理論	エリクソンの発達理論	各発達段階と発達課題について理解する。
9	実習	自我同一性尺度 シャイネス尺度	自我同一性をどこまで確率できているのか把握する。シャイネスの程度を把握する。
10	人格理論	人格とは	特性論、類型論、フロイトとユングの人格理論を学ぶ。
11	精神病の知識	統合失調症、鬱病	自分自身や周囲の人の不調に気づくための知識を身につける。
12	発達障害の知識	自閉スペクトラム症	発達障害を抱える人への対処法や援助法を身につける。
13	ストレスマネージメント		ストレスへの対処法を身につける。
14	実習	コミュニケーションスキルトレーニング	ロールプレイでアサーティブなコミュニケーションスキルを身につける。
15	まとめ	復習	今までの授業内容を復習し、理解を深める。

科目名	基礎数学	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	数学の基礎について再確認するとともに、社会で必要とされる基礎計算技能とライフサイエンスの分野でよく使われる計算技能を身に着ける。				
教育内容	初歩的な計算方法の復習とライフサイエンスにおける数値の取り扱いや論理的関係について親しみ、考え方を深めていく。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験、出席状況（補講の出席率を含む）、授業への参加度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	計算の基礎	四則計算	各種四則計算の仕方を確認する。 計算の方法やその意味を説明できる。
2		分数・小数（1）	通分・逆数などの計算方法を確認する。 分数・小数の取り扱いができる。
3		分数・小数（2）	割合の理解とその計算ができる。
4		指数・対数	指数・対数の計算方法を確認する。 指数・対数の意味を説明できる。
5		基礎計算のまとめ	これまでに学んだ事を様々に生かせる。
6		有効数字	科学的記数法やその取扱い方法を理解する。
7	単位、濃度計算	単位（1）	単位の意味を知り、相互変換ができる。
8		単位（2）	濃度の意味を知り、それを活用できる。
9		簡易な統計	平均等、数値の取り扱い方を確認する。 箱ひげ図やグラフが描ける。
10	計算技法の利用	薬品の調製（1）	比例計算の確認と希釈等の概念を理解する。
11		薬品の調製（2）	薬品の調製に必要な計算ができる。
12		投薬量の計算	投薬量が計算できる。
13		点滴の計算	点滴時間などが計算できる。
14	まとめ	今までの復習・応用	比例計算・方程式の利用ができる。
15		今までの復習・応用	今まで学んだことが身についているか確認する。

科目名	基礎化学	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	元素記号や元素名を覚え、化合物名、化学式を理解できるようになる。 濃度計算ができるようになる。				
教育内容	高校の復習を含みながら基本的な内容を重点的に勉強していきます。 特に、実習で必要な濃度計算や資格試験で必要な内容に関して重点をおいて進めていきます。				
教科書・教材	ダイナミックワイド図説化学				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	物質の状態	物質の状態変化	物質の三態を理解する。
2	物質の構造	原子と分子	原子の構造、周期表、電子配置を理解する。
3		周期表	
4		電子配置	
5	物質の構造	化学結合	化学結合、化学式、化学反応式を理解する。
6		化学式	
7		化学反応式	
8	溶液の濃度	原子量と分子量	%濃度、モル濃度を理解する。
9		パーセント濃度	
10		モル濃度	
11	中和反応	酸と塩基	酸と塩基、中和反応を理解する。
12		中和反応	
13	酸化と還元	酸化と還元	酸化と還元、酸化剤と還元剤を理解する。
14		酸化剤と還元剤	
15	総復習		

科目名	英語Ａ	履修時期	1 年 1 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	グローバル化する国際社会に対応するため、質の高い英語力と幅の広い国際教養を身につける。				
教育内容	専門的な知識や技能を伝えるための実践的な英語力を育成する。 また、英語による表現力を養うため、TOEIC 演習を行うとともに国際教養の涵養に努める。				
教科書・教材	TOEIC テスト書きこみノート　入門編				
評価法	定期試験、小試験、授業態度（授業への参加度を含む）				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	英語表現	品詞のまとめ・文の種類	品詞と文の理解、TOEIC 演習、国際理解演習
2	英語表現	名詞	名詞による英語表現、TOEIC 演習、国際理解演習
3	英語表現	代名詞	代名詞による英語表現、TOEIC 演習、国際理解演習
4	英語表現	動詞 1	動詞による英語表現 1、TOEIC 演習、国際理解演習
5	英語表現	動詞 2	動詞による英語表現 2、TOEIC 演習、国際理解演習
6	英語表現	形容詞・副詞	形容詞・副詞による英語表現、TOEIC 演習、国際理解演習
7	英語表現	助動詞	助動詞による英語表現、TOEIC 演習、国際理解演習
8	英語表現	前置詞	前置詞による英語表現、TOEIC 演習、国際理解演習
9	英語表現	発音・筆記体の理解	英語特有の発音を理解し、演習する。筆記体の基本を理解する。
10	英語表現	筆記体演習 1	筆記体による英語表現演習 1
11	英語表現	筆記体演習 2	筆記体による英語表現演習 2
12	英語表現	まとめテスト 1	TOEIC 実践テスト演習 1、国際理解演習
13	英語表現	まとめテスト 2	TOEIC 実践テスト演習 2、国際理解演習
14	国際理解 1	世界と日本 1	最新データによる世界と日本を理解するための演習を行う。
15	国際理解 2	世界と日本 2	最新データによる世界と日本を理解するための演習を行う。

科目名	英語 B	履修時期	1 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	Veterinary Science の分野で必要な医療英語を学習する。正しく情報を読み取り、理解して、正しく Communication するために、英語の基礎をしっかり習得する。				
教育内容	医療英語を通して、「読む、書く、聞く、話す」の英語 4 つの運用能力を高め、Communication 能力を養う。				
教科書・教材	English for Students of Veterinary Science　　獣医学系学生のための総合英語				
評価法	定期試験、出席状況、授業態度				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	Introduction	Pop Quiz	基礎を復習する
2	Part Ⅰ Animals Intersecting	Chapter 5	Understanding Your Dog's Behavior 犬の行動を理解しよう、英文を読む時「直読直解」をめざす
3	with Our Daily Lives	5 文型について	主語、動詞、補語、目的語を理解する
4		Chapter 6	Pet Lovers: Japan's Evolving Relationship with Dogs and Cats 日本のペット―犬と猫と人間の現状
5		品詞について	名詞、動詞、形容詞、副詞 etc. を理解する
6		Chapter 7	World-famous Country Vet: James Herriot 人を愛し、動物を愛した獣医さん、ヘリオット先生
7		関係代名詞について	主格、所有格、目的格　　（形容詞節の読み方）
8		Chapter 8　★	The Horse in Veterinary Medicine ウマの獣医―その魅力と課題
9		準動詞について	不定詞、動名詞、現在分詞、過去分詞の使い方
10		Chapter 9	Caring for Aging Dogs: Coco's Case 老いていく犬の世話をする―ココの場合
11	Part 2 Topical Issues	Chapter 10　★	Foot-and-Mouth Disease: What's Its Real Threat? 口蹄疫―その脅威とは？
12	in Veterinary Medicine	Chapter 11　★	The Emerging Challenge of Zoonoses 人獣伝染病という新たな課題
13		Chapter 14	Feline AIDS:　Can Cats Catch AIDS? 猫エイズ―猫もエイズにかかるのか？
14		Chapter 15　★	What Does an Embryologist Do? エンブリオロジストとは何をする人か？
15		まとめ	教科書の医療用語をまとめて Review する

＊注意事項：★印の Chapter8,10,11,15 は、時間次第で速読の練習になります。

科目名	生化学	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	生命の基本単位として細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、糖質、タンパク質、脂質、核酸、酵素、ビタミン、ホルモン、無機質の構造、性質に関する基本的知識を修得する。				
教育内容	生体成分の構造と機能について学び、確認問題で理解を深める。 生化学の基本原理を理解することは最も重要であり、基礎的事項の理解のために復習をすること。				
教科書・教材	好きになる生化学				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	細胞	真核細胞と原核細胞	細胞の基本構造を理解する。
2		細胞内小器官	細胞内小器官を理解する。
3	糖質	糖質の化学	糖質の基本構造を理解する。
4		糖質の代謝	糖質の代謝を理解する。
5	アミノ酸 タンパク質	アミノ酸とタンパク質の化学	アミノ酸、タンパク質の基本構造を理解する。
6		アミノ酸、タンパク質の代謝	アミノ酸、タンパク質の代謝を理解する。
7	脂質	脂質の化学	脂質の基本構造を理解する。
8		脂質の代謝	脂質の代謝を理解する。
9	核酸	核酸の化学	核酸の基本構造を理解する。
10	酵素	酵素の特性	酵素の特性、分類を理解する。
11	ビタミン	ビタミンの種類	ビタミンの種類と機能を理解する。
12	ホルモン	ホルモンの種類	ホルモンの種類と作用を理解する。
13	無機質(ミネラル)	ミネラルの役割	ミネラルの役割を理解する。
14	代謝	同化と異化	糖質、タンパク質、脂質の代謝を理解する。
15	まとめ		

科目名	検査機器総論	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	基礎実習で必要な関連分析機器、検査機器の取り扱い。				
教育内容	主に検査・実習で使用する機器について、原理と注意点を中心に講義をします。実際に機器を取り扱いながら、講義を進めていくことで、より理解を深めていきます。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験、出席状況による加点				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	一般機器・器具	一般機器･器具の取り扱いと単位変換	主な取扱いと注意事項、単位変換を理解する。
2	秤量装置	電子天秤・精密天秤	天秤の原理、構造を理解する。
3	攪拌装置	攪拌機、振盪機	攪拌機、振盪機の原理、構造を理解し、取り扱い方を理解する。
4	遠心分離装置	遠心分離機	遠心機の原理、構造を理解し、用途、取り扱い方を理解する。
5	遠心分離装置	遠心分離機	
6	滅菌装置	オートクレーブ	オートクレーブの構造、滅菌条件、用途、取り扱い方を理解する。
7		乾熱滅菌器	乾熱滅菌器の滅菌条件、用途、取り扱い方を理解する。
8	顕微装置	生物顕微鏡、実体顕微鏡、倒立顕微鏡	顕微鏡の原理、構造を理解する。
9			顕微鏡の種類、用途、取り扱い方を理解する。
10	電気化学装置	pH メーター	pH メーターの構造と取り扱い方を理解する。
11	分光装置	分光光度計	分光光度計の原理、構造を理解する。
12	生理機能検査装置	心電計	心電計の構造、用途を理解する。
13		超音波装置	超音波装置の構造、用途を理解する。
14	まとめ	演習	復習問題
15			演習問題

科目名	就職講座	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	自己理解・他者理解を深め、社会人として求められるコミュニケーションスキルとストレスマネージメントスキルを身につける。				
教育内容	グループワークや心理テストを通して、自分のコミュニケーションスタイルやストレスとの向き合い方を見直し、社会人として必要なスキルを身につける。				
教科書・教材	三訂版　アサーショントレーニングさわやかな自己表現のために　日本精神技術研究所　平木典子 著				
評価法	試験、出席状況、授業態度および取り組み姿勢を総合的に評価する。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	オリエンテーション	グループワークを進めるために	グループワークの意義を理解し、積極的に取り組む姿勢を身につける。
2			
3	自己理解・他者理解	エゴグラムから分かること	エゴグラムを用いてグループワークを行い、自己理解・他者理解を深める。
4			
5	コミュニケーション	聞き方・話し方	自分のコミュニケーションスタイルを振り返り、課題を見つけ出す。
6			
7		アサーション	アサーティブなコミュニケーションスキルを身につける。
8			
9			
10			
11	ストレスマネージメント	事例から学ぶストレスマネージメント	事例から対処法を学ぶ。
12			
13		私のストレスマネージメント	自分はどの様な場面でストレスを感じやすいのかを知り、対処法を身につける。
14			
15	まとめ	復習	

科目名	動物愛護・適正飼養関連法規	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物医療について法律学の立場から学問的に探求することを通じて、基本的知識や多様な理論を理解し、合理的な考察力と冷静な判断力、さらに論理的思考力を養う。				
教育内容	動物医療に関する法的理解について、各論点の検討を行いつつ習得することとする。基本的知識を的確に把握した上で、現在の動物を取り巻く人間社会の対応や問題となっている諸課題の要点、その解決に向けた考え方の道筋を各自で考察し、クラス全体で検討する。				
教科書・教材	授業内で配布するレジュメ集およびプリント				
評価法	定期試験の得点および授業時の積極性を総合的に評価する。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	ガイダンス	講義内容・評価方法の確認	本講義の目的と学習内容の意義を確認する。 各自の進路と本講義の関係を理解する。
2	アイスブレーク	各学生の関心事の確認	講義内容に関連する倫理的･法的諸問題を各自の視点から確認する。
3	イントロダクション	国民の動物に対する認識	統計資料から一般国民の愛玩動物に対する意識を確認する。 社会一般的な認識と各自が有する動物観の差異を認識する。
4	動物愛護論1	東洋と西洋の動物観	東洋と西洋の動物観およびその違いを確認する。 動物と人間社会の関わりの変遷について歴史的視点から学習する。
5	動物愛護論2	動物愛護運動とアニマル･ライツ	動物愛護運動の必要性とその展開について確認する。 アニマル・ライツの概念について、その意義を学習する。
6	動物愛護論3	動物と人間の関係および動物に関する倫理問題	動物と人間の関係について現代的視点からを確認する。 現代社会における動物に関する倫理問題について学習する。
7	動物関係法令1	動物と法律との関係	わが国の法体系と動物関係法の位置付けについて確認する。 獣医師と動物看護師の職務の違いを理解し､適切な診療に従事する責務と規制について「獣医師法」および「獣医療法」を学習する。
8	動物関係法令2	動物愛護管理法①	「動物の愛護及び管理に関する法律」の制定・立法趣旨・近年の改正状況について学習する。
9	動物関係法令3	動物愛護管理法②	「動物の愛護及び管理に関する法律」の重要条文についての内容および法解釈について学習する。
10	動物関係法令4	動物愛護管理法③	「動物の愛護及び管理に関する法律」の重要条文についての内容および法解釈について学習する。
11	動物関係法令5	動物愛護管理法④	「動物愛護管理法」の規程に関連する政省令等の内容について学習する。
12	動物関係法令6	家庭飼育動物関係法令	「狂犬病予防法」、「愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律」、「身体障害者補助犬法」の他、家庭動物飼養基準等の諸政令に示される家庭動物の飼養基準について学習する。
13	動物関係法令7	野生動物関係法令	「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」等の野生動物の保護に関する法令について学習する。
14	現代的課題と展望	動物愛護の倫理的考察	動物医療の倫理と法における現代的課題と展望について考察し、解決に向けた具体的な提案を検討する。
15	まとめ	講義全体の総括	全講義内容についての総復習(質疑応答を含む)を行い、総合的理解度を確認する。

科目名	生命倫理・動物福祉	履修時期	1年4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	生命倫理学上の明確な正解のない諸問題について、学問的に探求することを通じて、基本的知識や多様な理論を理解し、合理的な考察力と冷静な判断力、論理的思考力を養う。また優れたコミュニケーション能力(発表能力および文章表現力)も併せて修得する。				
教育内容	本授業は、生命倫理学に関する基本的知識の習得および法的問題の考察を行った上で、生命倫理学における個別具体的諸問題の検討を行う。各学生が関心を持つ複数の共通テーマを取り上げ、グループ発表を行い、クラス全体で討論を行い、クラス全体で討論を行うことで、多角的な視点から各テーマを掘り下げて学習する。さらに、各学生が扱ったテーマを小論文にまとめる作業を通じて、さらに理解を深めることとする。				
教科書・教材	授業内で配布するレジュメ集およびプリント				
評価法	出席および授業時の積極性を平常点として2割程度､授業時に行われる課題発表およびレポートの内容を3割程度、定期試験の得点を5割程度の配分にて、総合評価を行う。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	ガイダンス	講義内容、評価方法の確認	本講義の目的と学ぶ意義を確認する。 各自の進路と本講義の関係を理解する。
2	課題発表についての説明	課題発表の形式・内容の説明	課題発表の目的を確認する。 課題内容の論点を整理した上で理解する。
3	生命倫理学①	倫理学導入	生命倫理学とは何かについて理解する。
4	課題発表準備①	発表内容・方針の確認	各テーマを担当する複数の班を形成する。 各テーマの内容や主要な論点を検討する。
5	生命倫理学②	思考実験Ⅰ・妊娠中絶	論理的問題の所在を確認し、考察する。 論理的思考方法を習得する。
6	課題発表準備②	課題発表に向けた準備	各班内で論点の検討方法を確認する。 各班内で多様な意見を出し合い共有する。
7	課題発表準備③	中間発表の実施	各班15分程度のプレゼンテーションを行う。 論点設定や検討方法の不備を全体で確認する。
8	課題発表準備④	課題発表に向けた準備	各班内で論点及び考察方法等の再検討を行う。 発表に備えて資料等を整理し、再検討する。
9	生命倫理学③	思考実験Ⅱ・安楽死	論理的問題の所在を確認し、考察する。 論理的思考方法を習得する。
10	課題発表準備⑤	課題発表に向けた準備	各班内で論点等の再検討を行う。 発表に備えて資料等を整理、検討する。
11	課題発表①	第1課題：遺伝子組換作物 第2課題：再生医療技術	各自の視点で課題内容を考察する。 論理的問題についてクラス全体で討論する。
12	課題発表②	第3課題：生殖補助医療 第4課題：治験 (医薬品の人体実験)	各自の視点で課題内容を考察する。 論理的問題についてクラス全体で討論する。
13	課題発表③	第5課題：動物実験 第6課題：動物愛護と災害時避難	各自の視点で課題内容を考察する。 論理的問題についてクラス全体で討論する。
14	文章作成演習	レポート作成	全体構成、文章表現、考察内容を検討する。 私見について熟考する。
15	まとめ	講義全体の総括	生命倫理学の思考方法を確認する。 諸問題についての検討内容を確認する。

科目名	人と動物の関係学	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物看護にあたるうえで必要となる人と動物の深い絆を理解する。 人間の福祉の専門家らと協同して取り組むべき社会問題について理解する。愛玩動物が人に与える恩恵と高齢飼い主が抱える飼育の問題について理解する。人と動物の良好な関係を心理学的および社会学的側面から理解する。				
教育内容	動物が人間社会で果たしている役割や、その背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻				
評価法	定期試験、小テスト、授業態度(出席率を含む)				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	人間と動物の関わりの歴史		動物の飼養・利用の歴史について理解する。
2			
3			欧米と日本の動物観、動物との関わりの相違について理解する。
4			
5	現代の人と動物の関わり		動物の飼養と利用の現状について理解する。
6			
7	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育		動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する。 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する。
8			
9			動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する。 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する。
10			
11			学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する。
12	人間と動物の関わり		動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する。
13			
14	人間の福祉と愛玩動物の関わり		動物の虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する。 多頭飼育問題について理解する。 愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情について理解する。
15			

科目名	公衆衛生学Ⅰ	履修時期	1年 1,2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30 時間
教育目標	動物看護業務に活用することを目的とした基礎的な衛生学を修得し、獣医療における感染予防対策を学ぶ。また、獣医療を通して社会の公衆衛生の保全・向上に努める。動物の健康に影響を与える要因についてヒトの公衆衛生と対比しながら、予防衛生に関する実践力を養う。				
教育内容	総論では公衆衛生の定義と疫学を学習し、集団の抱える問題や問題発生予防について、観察・整理・推量する能力を身につける。各論ではヒトの公衆衛生保全・向上を目的とした公衆衛生行政・法規について解説し、動物性食品を含む食品の衛生、環境問題について講義を行う。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻, プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	公衆衛生学概論と分類	公衆衛生の定義を理解する。
2		疫学	疾病・死亡の指標、疫学研究について理解する。
3			
4	感染と流行	感染の成立	感染とは、感染成立の三大要因、感染経路、人獣共通感染症の定義について理解する。
5		洗浄・消毒(殺菌)・滅菌	機器の効能・特徴について理解する。
6			薬剤、薬剤耐性菌について理解する。
7			獣医療で活用する実践的な衛生管理方法を身につける。
8	食品衛生	食品衛生行政と関連法規	食品衛生行政・関連法規について理解する。
9		食中毒	細菌性・ウイルス性・化学性食中毒について理解する。
10		動物性食品の衛生	動物性食品の衛生基準・食品の保存方法について理解する。
11	環境衛生	地球規模の環境問題	主要な地球環境問題と行政・関連法規について理解する。
12		公害	主要な公害と行政・関連法規について理解する。
13		水の衛生	上水道と下水道の安全管理行政・関連法規について理解する。
14		廃棄物問題	獣医療で遵守すべき廃棄物処理について理解する。
15	まとめ		

科目名	公衆衛生学Ⅱ	履修時期	1年4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物看護業務に活用することを目的とした基礎的な衛生学を修得し、獣医療における感染予防対策を学ぶ。また、獣医療を通して社会の公衆衛生の保全・向上に努める。動物の健康に影響を与える要因についてヒトの公衆衛生と対比しながら、予防衛生に関する実践力を養う。				
教育内容	総論では獣医公衆衛生の定義と行政・関連法規を学習することで、獣医療従事者としてヒトの公衆衛生保全を担う目的と知識を修得します。 各論ではヒトの公衆衛生保全・向上を目的とした、人獣共通感染症を含む代表的な感染症の症状・病因・伝播様式・予防について講義を行う。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻・5巻、プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	獣医公衆衛生行政と関連法規	獣医公衆衛生の目的と、近年の獣医公衆衛生に関する国際的な取り決めを理解する。
2			ヒトの公衆衛生保全を担う獣医公衆衛生行政と関連法規の概要を理解する。
3	感染症	細菌性	細菌の基本構造と分類について理解する。
4			代表的な細菌性感染症の病原体・伝播様式・予防・関連法規について理解する。
5			
6			
7		真菌性	心筋の基本構造と分類、代表的な真菌性感染症の病原体・伝播様式・予防について理解する。
8		リケッチア クラミジア	代表的なリケッチア、クラミジア感染症の病原体・伝播様式・予防について理解する。
9		プリオン	代表的なプリオン病の病原体・伝播様式・予防・関連法規について理解する。
10		ウイルス性	ウイルスの基本構造と分類について理解する。
11			狂犬病の病原体・伝播様式・予防、世界の流行状況について理解する。狂犬病予防法に基づいて、犬の飼育者に向けた狂犬病蔓延防止を図る知識と助言方法を修得する。
12			代表的なウイルス性感染症の病原体・伝播様式・予防・関連法規について理解する。
13			
14			
15	まとめ		

科目名	愛玩動物学Ⅰ	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	伴侶動物の起源・分類・習性・生理・食性等の理解を深める。				
教育内容	伴侶動物（特に犬・猫）を理解することで、接触態度をどのように変化させたらよいかを考え、動物看護に応用させる。				
教科書・教材	図鑑 世界の犬、プリント				
評価法	出席状況、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	伴侶動物の起源	分類・歴史	伴侶動物の起源について理解を深める。
2	伴侶動物の起源	分類・歴史	伴侶動物の起源について理解を深める。
3	伴侶動物の特徴①	骨格筋	骨格筋について学び、動物種で違いを理解する。
4	伴侶動物の特徴①	骨格筋	骨格筋について学び、動物種で違いを理解する。
5	伴侶動物の特徴②	外形上の特徴	外形について学び、動物種で違いを理解する。
6	伴侶動物の特徴②	外形上の特徴	外形について学び、動物種で違いを理解する。
7	伴侶動物の特徴③	感覚器	感覚器について学び、動物種で違いを理解する。
8	伴侶動物の特徴③	感覚器	感覚器について学び、動物種で違いを理解する。
9	伴侶動物の特徴④	歯科	歯科について学び、動物種で違いを理解する。
10	伴侶動物の特徴④	歯科	歯科について学び、動物種で違いを理解する。
11	伴侶動物の行動①	食性・習性	食性・習性について学び、動物種で違いを理解する。
12	伴侶動物の行動①	食性・習性	食性・習性について学び、動物種で違いを理解する。
13	伴侶動物の行動②	コミュニケーション	コミュニケーションについて学び、動物種で違いを理解する。
14	伴侶動物の種類	動物種と補助犬	代表的な動物種と補助犬について学ぶ。
15	まとめ		

科目名	愛玩動物飼養管理	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	愛玩動物飼養管理士資格取得				
教育内容	愛玩動物飼養管理士資格取得に向け、愛玩動物についての理解、社会活動、法令についての理解を深める。				
教科書・教材	愛玩動物飼養管理士2級テキスト、プリント				
評価法	出席状況、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	愛玩動物飼養管理士試験対策	愛玩動物飼養管理士	資格取得に向け、愛玩動物についての理解、社会活動、法令についての理解を深める。
2			
3	愛玩動物飼養管理士試験対策	人と動物の関係学	
4			
5	愛玩動物飼養管理士試験対策	動物関係法令	
6			
7	愛玩動物飼養管理士試験対策	動物のからだの仕組みと働き	
8			
9	愛玩動物飼養管理士試験対策	動物の飼養管理(総論)	
10			
11	愛玩動物飼養管理士試験対策	動物の飼養管理(各論)	
12			
13	愛玩動物飼養管理士試験対策	動物のしつけ	
14			
15	まとめ		

科目名	動物看護学概論	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物看護師として必要な素養を身につける。 コンパニオンアニマルと獣医師・クライアントを結ぶ架け橋となりうる存在の重要性を知る。				
教育内容	人と動物の絆（ヒューマンアニマルボンド）を前提に、獣医療の現場でどのように対応すべきか、正しい考え方と他者の痛みに共感できる感性を養う。 動物介在の場において適切な言語法を身につける。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物看護師の役割	動物看護師とは	動物看護師とは何か、その立場・あり方を学ぶ。
2	動物看護師の立場	動物看護師とは	動物看護師とは何か、その立場・あり方を学ぶ。
3	動物看護とは①	7つの役割	動物看護の7つの役割について理解する。
4	動物看護とは②	7つの役割	動物看護の7つの役割について理解する。
5	適正飼養①	適正飼養とは	動物の適正な飼養環境、管理を理解する。
6	適正飼養②	適正飼養とは	動物の適正な飼養環境、管理を理解する。
7	クライアントコミュニケーション	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて理解する。
8	院内コミュニケーション	スタッフコミュニケーション	病院内でのスタッフ間のコミュニケーションについて理解する。
9	入院動物の管理・看護記録の方法	獣医療専門用語	主な獣医療専門用語が理解する。
10	入院動物の管理・看護記録の方法	POMR	POMRの理念及び構成を理解する。
11	痛みの管理	ペインコントロール	痛みの分類、ケアについて理解する。
12	痛みの管理	ペインコントロール	痛みの分類、ケアについて理解する。
13	ペットロス	ペットロスとはなにか	ペットロス、グリーフケアについて理解する。 （安楽死についても含む）
14	ペットロス	グリーフケア	ペットロス、グリーフケアについて理解する。 （安楽死についても含む）
15	まとめ		

科目名	動物臨床看護学総論	履修時期	1年4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物看護師の業務内容、看護過程、看護記録の方法を学び習得する。 実例を用いてターミナルケア・グリーフケアを学ぶ。				
教育内容	動物看護師の業務内容や看護過程の流れ、看護記録の取り方を解説する。 ターミナルケア、グリーフケアの方法と現場での症例を解説する。 動物看護という仕事への考え方、意識を確認する。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、授業への取り組み姿勢、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物看護師とは	動物医療	人の医療従事者と動物の医療従事者の相違について学ぶ。
2		業務範囲	動物看護師の業務範囲について学ぶ。
3	動物看護業務	動物看護業務①	受付業務について理解する。
4		動物看護業務②	外来診療業務について理解する。
5		動物看護業務③	手術関連業務について理解する。
6		動物看護業務④	環境整備業務について理解する。
7	動物看護過程	看護過程の構成	看護過程を理解する。
8		看護記録	記録のとり方、原則、重要性を理解する。
9	動物看護	若齢期	若齢動物の看護について学ぶ。
10		老齢期	高齢期の看護について学ぶ。
11	QOL	QOLとは	QOLの概念を理解する。
12	ターミナルケア	ターミナルケアとは	ターミナルケアの方法を学ぶ。
13	グリーフケア	グリーフケアとは	グリーフケアの重要性について学ぶ。
14	エンジェルケア	終末期・看取り	対象動物と飼い主への関わり方を学ぶ。
15	まとめ		

科目名	動物健康管理	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物の健康管理について学ぶ。 動物達の健康チェックやお手入れ等をメインに異常に気付くことが出来るようになる。				
教育内容	動物の健康チェックやお手入れ方法を身につけ、また全体を見渡し判断出来るようになることを目標にする。さらにコミュニケーション力・説明力も身につける。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験、出席状況などの総合評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	健康管理	健康とは	動物医療従事者の観点から健康を考える
2			
3		生態と健康①	犬の身体のしくみ
4			健康チェックとお手入れ方法
5		生態と健康②	猫の身体のしくみ
6			健康チェックとお手入れ方法
7		生態と健康③	ウサギの身体のしくみ
8			健康チェックとお手入れ方法
9		生態と健康④	モルモットの身体のしくみ
10			健康チェックとお手入れ方法
11		生態と健康⑤	ハムスターの身体のしくみ
12			健康チェックとお手入れ方法
13		生態と健康⑥	鳥類の身体のしくみ
14			健康チェックとお手入れ方法
15	まとめ		

科目名	動物入院管理	履修時期	1年4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	入院動物の日常管理について理解し説明できる。 状態を確認し、変化にいち早く気づき獣医師や飼い主様に報告出来る力を身に付ける。				
教育内容	入院室を常に清潔にし、不安や負担を感じないような環境を提供できるように理解する。 必要に応じて実習を取り入れ、体で覚える事でより一層の理解、修得につなげる。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席および授業態度、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	入院管理	入院から退院	入院から退院までの大きな流れを理解する。 入院・退院時の飼い主様対応について理解する。
2			
3		入院準備	入院ケージの仕組み、清掃方法について理解する。 入院中に使用する道具について理解する。
4			
5		動物の預かり	動物を預かり、退院までの知識、手技、保定を理解する。 飼い主様への確認事項について理解する。
6			
7		記録記入方法	看護計画、看護記録について理解する。
8			
9		入院動物観察・管理①	病気や状態に応じた看護上の注意点や観察ポイントを理解し、対処法を行えるようにする
10			
11		入院動物観察・管理②	病気や状態に応じた看護上の注意点や観察ポイントを理解し、対処法を行えるようにする
12			
13		入院動物観察・管理③	老齢や病気で動けなくなった動物の看護と注意点を把握する。 入院動物の食事について理解する。
14			
15	まとめ		

科目名	動物内科看護学Ⅰ	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	内科学とは罹患している動物の原因疾患を身体診察や検査から明らかにし，内科的治療法を確立することである．さまざまな疾患の基礎知識を習得することを目標とする．				
教育内容	獣医臨床において遭遇する機会の多い内科学疾患を系統別に説明する．				
教科書・教材	プリント、愛玩看護師カリキュラム準拠教科書7巻				
評価法	出席，定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	内科疾患について	循環器の疾患	心臓の解剖および機能を理解し，心臓病の病態を理解する．
2		循環器の疾患	各種先天性および後天性心疾患の病態および検査法を理解する．
3		呼吸器の疾患	呼吸器の機能を理解し，呼吸器疾患の病態を理解する．
4		呼吸器の疾患	各種呼吸器疾患の病態を理解する．
5		内分泌の疾患	各種ホルモンの分泌臓器およびホルモンの役割を理解する．
6		内分泌の疾患	各種内分泌疾患の病態を理解する．
7		泌尿器の疾患	泌尿器の機能を理解し，泌尿器疾患の病態を理解する．
8		泌尿器の疾患	各種泌尿器疾患の病態を理解する．
9		消化器の疾患	消化管機能を理解する．
10		消化器（消化管）の疾患	消化管（口腔～腸管）疾患の病態を理解する．
11		消化器（肝・胆・膵）の疾患	消化器（肝・胆・膵）疾患の病態を理解する．
12		ワクチン	ワクチンの目的，種類，ワクチンプログラムを理解する．ワクチンに組み込まれているウイルス疾患の病態を理解する．
13		神経疾患	代表的な神経疾患の病態を理解する．
14		皮膚疾患	代表的な皮膚疾患の病態を理解する．
15		眼科疾患	代表的な眼科疾患の病態を理解する．

科目名	動物形態機能学Ⅰ	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	微生物や植物、動物を含めた、幅広い生物学的基礎知識を習得します。				
教育内容	高校までの生物学を復習しながら、動物看護学と関連のある基礎分野を学びます。この授業で学ぶ内容は、1年次2期以降の修得科目で取り扱われる内容の概説である。幅広い動物看護学を理解する上で必要となる、微生物や植物、動物に関する基本的な専門用語の理解・生物学的基礎知識を修得する。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻、プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	生命のすがた	生命体を構成する物質	生物の身体を形作る水、タンパク質の構造、機能を理解する。
2			生物の身体を形作る核酸、脂質、多糖の構造、機能を理解する。
3		生物の系等と分類	生物の定理を認識する。
4			真核生物、細菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマとウイルス、プリオンの基本構造とそのしくみを理解する。
5		細胞の構造としくみ	細胞を構成するオルガネラの構造としくみを理解する。
6			
7			核酸の構造としくみ、DNAの複製・転写・翻訳・遺伝子発現を理解する。細胞内におけるタンパク質合成の機序を説明できるようになる。
8			
9			エネルギー代謝と異化同化について理解する。
10		物質の輸送方法	動物の体内で行われる、物質の受動輸送・能動輸送の原理を理解する。
11		細胞分裂	染色体の構造と主な動物種の染色体数を理解する。 体細胞分裂と減数分裂の目的と機序を含む細胞周期を理解する。
12		遺伝子と染色体	遺伝の法則・遺伝様式を理解する。 染色体異常と代表的な遺伝性疾患を理解する。
13		からだを構成する細胞組織	細胞、組織、器官の成り立ちを認識する。 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織を構成する細胞の構造と機能を理解する。
14			
15		からだを構成する器官	器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する。

科目名	動物形態機能学Ⅱ	履修時期	1年1期	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物が担う様々な役割と関連する器官の生体機能を学ぶ。動物の生命維持の仕組みと解剖学および生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。動物病院での臨床においてあらゆる診療知識や技術の基本となるのが形態機能学である。犬や猫の他の動物との比較解剖についても理解し、臨床看護に連結させる。				
教育内容	動物の体を構成する器官を理解する。細胞から組織、器官、系統系に形態学的機能学を学ぶ。各系統による臓器の働きを理解し、動物の生命維持に係る仕組を理解する。 細胞の原理、体の基本構造を理解し、体の支持及び骨格、筋肉の形態を理解する。消化器での吸収、心臓での循環器、肺での呼吸、ガス交換の仕組み、尿作成の泌尿器系について理解する。				
教科書・教材	プリント、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	体の基本構造	体を形づくる基本物質	体の機能と基本構造、細胞の発見と細胞説について説明する。
2		細胞のしくみと遺伝情報	細胞を構成する原料、動物、植物細胞の違いを説明する。
3	体の表面解剖	体の位置・方向	体の基本構造の名称と作用を理解する。
4		体の支持と運動	体細胞分裂、減数分裂について理解する。
5	筋骨格系	骨格	体の支持の関係,骨格及び骨の基本構造を理解する。
6		骨格筋、筋肉の解剖	骨格の名称及び筋肉の仕組みを理解する。
7	消化器系	消化器の名称と働き	歯の分類・口腔解剖を理解する。
8		消化吸収、栄養代謝の仕組み	胃・腸管・膵臓・肝臓・腺解剖を理解する。
9	循環器系	心臓	循環器系の概要について理解する。
10		血管・毛細血管	心臓・血管のしくみを理解する。
11	呼吸器系	肺	呼吸器系の構造を理解する。
12		気道・気管	呼吸のしくみを理解する。
13	泌尿器系	腎臓・尿路系	泌尿器系の各種比較解剖について理解する。
14		尿の作成に関する解剖	泌尿器系のメカニズムについて理解する。
15	まとめ		

科目名	動物形態機能学Ⅲ	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物が担う様々な役割と関連する器官の生体機能を学ぶ。動物の生命維持の仕組みと解剖学および生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。動物病院での臨床においてあらゆる診療知識や技術の基本となるのが形態機能学である。犬や猫の他の動物との比較解剖についても理解し、臨床看護に連結させる。				
教育内容	動物の体を構成する器官を理解する。細胞から組織、器官、系統系に形態学的機能学を学ぶ。各系統による臓器の働きを理解し、動物の生命維持に係る仕組を理解する。 生殖器の基本構造、内分泌及び外分泌の形態機能、中枢、末梢神経について、体性、感覚器系、外皮の基本構造、免疫のシステムについて理解する。				
教科書・教材	プリント、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	生殖器系	生殖器の基本的構造	動物種及び雌雄による生殖器の比較形態について説明する。
2		器官発生	生殖器の機能調節及び発情周期の違いを説明する。
3	内分泌系	内分泌と外分泌の違い	内分泌系の基本構造を理解する。
4		中枢から器官への内分泌	内分泌の形態について理解する。
5	神経系	脳と神経	神経系を構成する細胞を理解する。
6		脳と脊髄の構成要素	神経伝達の仕組みを理解する。
7	感覚器系	感覚系	受容器と閾値を理解する。
8		体性感覚	五感の仕組み及び形態を理解する。
9	外皮系	外皮	外皮系の概要について理解する。
10		皮膚の付属機関	体表の体温調節のしくみを理解する。
11	血液系	血液の基本	呼血液系の構造を理解する。
12		造血の仕組み	造血及び凝固のしくみを理解する。
13	免疫系	免疫システムの基本構造	免疫系の解剖について理解する。
14		総合まとめ	免疫系のメカニズムについて理解する。
15	まとめ		

科目名	動物形態機能学Ⅳ	履修時期	1年期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	生理学は生体またはその器官・細胞などの機能を理解する自然科学の一分野である。生理学を通して生命体の機能を学習する、その後に学習する様々な専門科目を理解する上で必須である。動物生理学では、動物の体の構造と機能、そしてその機能を調整する機構について基礎的な知識を習得することを目標とする。				
教育内容	動物の生命現象、生体の恒常性を維持するメカニズムを理解する。 生体を系統ごとに分類し、それぞれの系統の臓器・器官の構造や機能を解説する。 各項目において、正常な機能が損なわれた場合に発生する疾病との関係について理解する。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻,プリント				
評価法	出席状況,小試験,定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1		生理学とは	生体の基本単位を理解する。恒常性とは何か、説明する。
2		体液の組成と機能	生体における水の重要性とその調整について理解する。 細胞内液と細胞外液について説明する。
3	循環器系	心臓および血管の構造と役割	心臓の構造と働きを理解する。血液の循環と働きを理解する。
4		心臓および血管の構造と役割	血管の構造と特徴を理解する。
5	呼吸器系	呼吸器の構造と役割	呼吸の仕組みについて理解する。
6	消化器系	消化と吸収	栄養素とその役割を理解する。 三大栄養素、動物ごとの必須ビタミンについて説明する。
7		消化と吸収	栄養素を消化・吸収する仕組みを理解する。 消化管ホルモンの働きを説明する。
8	内分泌系	ホルモンの種類と作用	ホルモンの役割とその分泌調節を理解する。 タンパク・ペプチド系、ステロイド系、アミン系ホルモンについて比較・説明する。
9		ホルモンの種類と作用	各ホルモンの働きつまり、作用機序を理解する。 ホルモンの受容体を理解する。
10	泌尿器系	腎臓の構造と機能	腎臓の構造（腎小体、ネフロン）、遊走腎について説明する。
11		尿の生成と体液調節	尿細管の機能について説明する。 原尿、尿量調節のしくみを理解する。
12	生殖器系	生殖器、性周期	生殖器の構造、排卵、受精、着床、分娩、泌乳について説明する。 イヌとネコの性周期を理解する。帝王切開について説明する。
13	神経系	神経	神経の構造と神経伝達のしくみ理解する。 体性神経系と自律神経系について説明する。
14		感覚器	感覚神経とその受容器を理解する。
15	体温調節機構	体温調節中枢	動物種における体温の相違を理解する。 各動物種における体温調節のしくみを説明する。

科目名	動物行動学	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物の行動について習熟し、動物看護の現場でその知識を生かせるようにする。				
教育内容	動物の行動の意義、機構及び犬・猫の問題行動を理解する。 小動物臨床における行動学に関わる事例を紹介するとともに、動物看護師統一認定試験合格を目指し、学習していく。				
教科書・教材	配布資料、スライド				
評価法	出席率、授業態度、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	概論	犬・猫の起源・歴史	犬・猫の発生起源、生態、歴史を理解できる。
2	概論	犬・猫の種差、特徴	犬・猫の生態・行動の種差、特徴を理解できる。
3	行動の意義と機序	行動の発達	犬・猫の行動発達ステージ、発達過程を理解できる。
4	行動の意義と機序	行動の種類	生得的行動と習得的行動を理解できる。
5	行動の意義と機序	行動の種類	個体行動と社会行動を理解できる。
6	行動の意義と機序	行動の種類	コミュニケーション行動及びボディーランゲージを理解できる。
7	行動の意義と機序	行動の種類	性行動を理解できる。
8	しつけ・トレーニング	学習理論	馴化、鋭敏化について理解できる。
9	しつけ・トレーニング	学習理論	古典的条件付けについて理解できる。
10	しつけ・トレーニング	学習理論	オペラント条件付けについて理解できる。
11	しつけ・トレーニング	しつけ・トレーニングの方法	パピークラス、服従訓練等について理解できる。
12	問題行動	問題行動の成り立ち	問題行動が起こる原因・過程を理解できる。
13	問題行動	問題行動の対処	問題行動に対する対処・予防について理解できる
14	問題行動	問題行動の治療	問題行動の治療法について理解できる。
15	まとめ		

科目名	動物病理学	履修時期	1年4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	病理学的特徴を細胞・組織で詳細に理解する。分類別に修得し、発病のメカニズムを病理学的に熟知する。細胞の損傷についてDNAの修復を認識する。基本病変を分類し、細胞の老化、壊死、損傷を修得する。浸透と拡散による透過を学習し、酸塩基平衡の意義を学ぶ。ホメオスタシスによる生命体維持の成り立ちを述べ、生命細胞からの生体の成立を認識する。細胞の増殖と分裂を細胞組織で熟知する。				
教育内容	生体とは何か、もっとも基底であるこの分野を分かりやすくするために、臨床応用的疾病のメカニズムを説明する。血液およびリンパ性循環障害、進行性病変、退行性病変についての認識、炎症のメカニズムおよび免疫異常についての機構を学び、生物としての生体異常を理解する。細胞分化およびDNA損傷による腫瘍発症機構を熟知したうえで、疾病予防及び治療を理解する。				
教科書・教材	プリント、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	病理学概論	動物病理学とは「１」	細胞の機能と基本構造、細胞の発見と細胞説について説明する。
2		生体反応と疾病の機序「２」	生体の正常な反応と病的反応を知り、疾病の原因を理解する。
3		生体の回復力１「３」	生体の恒常性の維持する神経系の働きを知る。
4		細胞の損傷「４」	生体の恒常性の維持する内分泌、免疫系の働きを知る。
5	細胞や組織に生じる変化	退行性病変１「５」	障害に対する細胞や組織の変化を理解する。（変性、物質沈着）
6		退行性病変２	障害に対する細胞や組織の変化を理解する。（委縮、壊死）
7		進行性病変１「６」	細胞や組織の増殖の機序と再生
8		進行性病変２	損傷の治癒と疾病の過程を理解する。
9		循環障害「７」	血管循環障害と浮腫について理解する。
10		血液病態「８」、浮腫「９」	出血・血栓・栓塞・梗塞を理解する。
11	発病のメカニズム	炎症「１０」	炎症の機序について述べる。
12		炎症「１１」	免疫のメカニズムについて理解する。
13		腫瘍「１２」	腫瘍のメカニズムについて理解する。
14		先天異常「１３」	先天異常の概念と分類を理解・遺伝的、環境的要因と胎児の影響
15	まとめ		

科目名	動物感染症学Ⅰ	履修時期	1年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	動物看護の仕事をするには微生物学の知識の修得は不可欠である。 微生物学の基本をしっかりと勉強をしていただくのが目的である。				
教育内容	愛玩動物看護学科の学生には、ヒトあるいは動物の疾病の発生原因に微生物が関与していることが多い。疾病の成り立ち、診断、治療をよりよく理解するために微生物学的特性について十分理解して頂く必要がある。				
教科書・教材	動物感染症学 小野 文子 監修、プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	微生物の分類・生物学的特徴・伝播様式、感染症の発病メカニズム、予防・治療法	微生物学総論	微生物の定義、微生物の種類、微生物の誕生、人類と微生物との関係などについて説明する。 微生物学の発展に寄与した偉大な人物について学び、どの様な歴史を辿って今日の微生物学があるのか理解頂く。
2			
3		ウイルスの分類・形態・増殖方法・感染経路・病原性・予防法	ウイルス学の総論(構造、分類、増殖など)を詳細に述べる。病原体の感染経路や伝播様式についても説明し、ウイルス性動物感染症の代表的症例について症状、予防法、治療法について説明する。
4			
5		細菌の分類・形態・増殖方法・ 感染経路・病原体	細菌学総論(構造、形態、分類、増殖など)を詳細に説明する。主な細菌性動物感染症の症状、予防法、治療法について説明する。
6			
7		真菌の分類・形態・増殖方法・感染経路・病原体	真菌学総論について説明する。主な真菌性動物感染症の症状、予防法、治療法について説明する。また、検査法についても言及する。
8			
9		感染症の制御・消毒法・滅菌法・院内感染	消毒と滅菌の基本について説明する。院内感染とその対策法についても言及する。
10			
11		感染症の制御・ワクチン・原理・イヌ、ネコの製品・副作用・WSAVA のプログラム	イヌやネコにどのようなワクチンが使用されているのか、使用法、副反応などについて説明する。WSAVA のガドラインについて述べる。
12			
13		感染症の制御・予防薬・治療薬・薬剤感受性試験	抗菌性抗生物質を作用機序別に分類して、薬物の特徴、問題点、薬物耐性について説明する。
14			
15		昆虫媒介性の動物感染症	ノミ、ダニ、蚊が媒介する細菌性、ウイルス性、原虫性動物感染症について詳細に説明する。

科目名	動物感染症学Ⅱ	履修時期	1 年 1,2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	ペット動物や一部経済動物の重要な感染症のひとつとして寄生虫学を学ぶ。 この講義を通じて、病原体と感染(者)との間の相互関係を理解する。 ペット飼育者に正しい知識、情報を発信し得る動物看護師を養成する。				
教育内容	内部および外部寄生虫の生物学的特性とそれらが感染動物にもたらす病原性と病態(症状)などについて、教科書の図版や PC を参考にして学習する。				
教科書・教材	教科書：犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイドブック 参考書：イラストでみる犬の病気				
評価法	定期試験、出席状況				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	寄生とは	寄生虫とは	寄生虫学概論を理解する。
2	寄生虫学各論	内部寄生虫	動物体内に寄生する内部寄生虫の種類と特徴を知る。
3		蠕虫類	多細胞動物である蠕虫類を学ぶ。
4		線虫類	消化管寄生の線虫類の代表としての回虫および鉤虫を説明する。
5			鞭虫および糞線虫の生物学を講述する。
6			血液寄生の糸状虫類を説明する。
7			糸状虫類の代表として犬糸状虫の生物学特徴について学ぶ。
8		吸虫類	消化管寄生の壺形吸虫と肺寄生の肺吸虫について学習する。
9		条虫類	消化管寄生の瓜実条虫とマンソン裂頭条虫の生物学を理解する。
10			エノキコッカスの公衆衛生上の重要性を知る。
11		原虫類	単細胞生物としてのコクシジウム類を理解する。
12			血液寄生の原虫類の代表としてバベシアを学ぶ。
13		外部寄生虫	重要な外部寄生虫としてのノミを学ぶ。
14			昆虫類以外の外部寄生虫(ダニ類)の生物学について修得する。
15	総合評価		

科目名	動物感染症学Ⅲ	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	感染防御反応について、その機構を組織・細胞・分子レベルで理解するために、免疫学に関する基本的な知識を修得する。				
教育内容	免疫系は、外界から侵入した病原体や腫瘍といった非自己の成分を認識して、それを排除するために獲得免疫と自然免疫からなる。この授業では、免疫を担当する細胞と特徴的な機能を理解する。そして、細胞性免疫と液性免疫の仕組みを理解する。病原体の侵入を制御する防御システムについても理解する。また、免疫異常によって引き起こされるアレルギーや自己免疫疾患の発症メカニズムを理解する。臓器移植における拒絶反応のメカニズムについて理解する。ワクチンの種類と感染症予防の原理について理解する。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻・3巻				
評価法	定期試験、追再試験を行うことがある。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1 2	免疫系臓器	中枢性･末梢性免疫系臓器 物理的防御･化学的防御	中枢性免疫系臓器、末梢性免疫系臓器について理解する。 免疫反応に関わる組織と細胞を列挙し、その役割について理解する。 物理的防御と化学的防御について理解する。
3 4	生体防御	自然免疫	自然免疫系を構成する主な細胞とそれらの活性化機構を理解する。 補体および自然免疫細胞が病原体によって活性化し、炎症を引き起こす仕組みについて理解する。
5		体液性免疫	ヘルパーT細胞、制御性T細胞それぞれが担当する生体防御反応の概要について理解する。 B細胞の活性化による抗体産生の機構および抗体の役割を理解する。 T細胞抗原受容体の構造と反応様式について理解する。 主要組織適合遺伝子複合体クラス II の基本構造と機能、抗原提示によるT細胞活性化の仕組みについて理解する。
6		免疫グロブリン	免疫グロブリンの構造と反応様式について理解する。 いろいろな動物なおける免疫グロブリンの構造について理解する。 免疫グロブリン遺伝子の構造と遺伝子再構成に基づき、多様性獲得の機構の概要について理解する。
7 8		細胞性免疫	細胞傷害性T細胞､が担当する生体防御反応の概要について理解する。 主要組織適合遺伝子複合体クラス Iの基本構造と機能、抗原提示によるT細胞活性化の仕組みについて理解する。 体液性免疫と細胞性免疫について理解する。
9 10		T細胞抗原受容体 遺伝子再構成	T細胞抗原受容体遺伝子の構造と遺伝子再構成に基づき、多様性獲得の機構の概要について理解する。 胸腺におけるT細胞の分化過程にいて理解する。 代表的なサイトカインとケモカインを列挙し、その役割を理解する。 ウイルス、細菌、真菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴の概要について理解する。
11 12		受動免疫･能動免疫	受動免疫と能動免疫について理解する。 ワクチンの種類と感染症予防の原理を理解する。
13 14	免疫異常	自己免疫･自己抗体	免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症の概要について理解する。 自己抗体と関連する自己免疫疾患を列挙できる。 移植での免疫応答の特徴を理解する。
15		アレルギー・がん免疫	アレルギーの分類（Coombs分類）と発症の機序について理解する。 代表的なアレルギー疾患を列挙できる。

科目名	微生物学実習	履修時期	1年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45時間
教育目標	微生物学で学んだ知識を基に微生物の実験に関する基礎的手技（無菌操作、染色手技、顕微鏡操作など）および感染防止対策などの基本的知識・技術を徹底的に習得し、実践出来る能力を養う。				
教育内容	目に見えない危険な生き物を取り扱うので、基本的な無菌操作の手技を徹底的に習得させる。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験（60%），レポート提出（40%）によって総合的に評価する。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1 2	器具の洗浄 滅菌と消毒	器具洗浄の意義 滅菌・消毒の定義	使用する器具を洗浄する意義 滅菌・消毒の違いについて説明できる
3 4	培地の調整法	液体・平板・斜面・高層・卵黄寒天培地などの作製	液体・平板・斜面・高層・卵黄寒天培地などの作り方について説明できる
5 6	細菌接種法 細菌培養法	無菌操作 釣菌法，平板培地への植菌法	白金耳・線などの火炎滅菌などの基本的な無菌操作，釣菌・植菌などの基本操作について説明できる
7 8	培養所見観察 細菌の形態観察	集落の観察 染色法，顕微鏡操作	発育した集落の観察法，グラム染色法，顕微鏡操作について説明できる
9 10	手洗い・手指消毒	手洗い後の洗い残しの観察 手指消毒の培養後の集落数	手洗いと手指消毒の違いが説明できる
11 12	鼻腔内ブドウ球菌検出 薬剤感受性試験	鼻腔内ブドウ球菌の分離・同定 ブドウ球菌の薬剤感受性試験	鼻腔内ブドウ球菌の分離・同定法，同定されたブドウ球菌の薬剤感受性試験法について説明できる

科目名	動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	履修時期	1年 1,2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45 時間
教育目標	動物の適正飼養管理に必要な考え方を養う。 動物に対する接触態度から、動物の飼養に至るまで、コンパニオンアニマルの飼養管理全般の基礎知識を身につける。				
教育内容	飼養動物の適正な飼育管理方法を学ぶとともに、グルーミング技術の基礎を学ぶ。 飼養動物の QOL を高める術を考えることで、発想力や他者に共感できる感性の育成・強化につなげていく。				
教科書・教材	動物看護実習テキスト、プリント				
評価法	出席および授業時積極性、実技試験、定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物飼育管理①	動物の適正管理方法	実習に対する心構え、実習ノートの書き方を覚える。
2	動物飼育管理②	動物の適正管理方法	学校犬・猫の飼育管理方法を学ぶ。
3	動物飼育管理③	動物の適正管理方法	学校犬・猫の飼育管理方法を学ぶ。
4	動物飼育管理④	動物の飼育管理方法	飼育する上での基礎を学ぶ。
5	動物飼育管理⑤	動物の飼育管理方法	飼育する上での基礎を学ぶ。
6	動物飼育管理⑥	動物の飼育管理方法	飼育する上での健康面について学び理解する。
7	動物飼育管理⑦	動物の飼育管理方法	飼育する上で必要になるフードや道具を学び理解する。
8	保定	保定法	保定の基本、役割を理解し基本型を習得する。
9	投薬	投薬	様々な薬の形状や投与方法について学び理解する。
10	寄生虫	身近な寄生虫	身近にいる寄生虫の生態や薬の種類、投薬方法を学ぶ。
11	ブラッシングとケア	ブラッシング、日常ケア	犬のブラッシングとケアの仕方と重要性を学ぶ。
12	まとめ・実技試験		

科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ	履修時期	1年 3,4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45 時間
教育目標	臨床検査学の実習として、寄生虫卵あるいは寄生虫体の検出を目的とした糞便検査や血液検査法の基礎知識と実践手段を学ぶ。 動物病院にて寄生虫検査の即戦力として信頼される知識・技術を体で覚え込めるよう繰り返し実習する。				
教育内容	顕微鏡の取り扱い方、操作方法を習熟させ、顕微鏡検査による寄生虫感染症の検査診断法を身に付ける。 検体の採取・保存管理法も修得する。 機会をみて、目黒寄生虫館への見学実習および牧場へのサンプリングを実施し、寄生虫あるいは大・中・小動物に直接触れる。				
教科書・教材	犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイドブック				
評価法	定期試験、出欠席状況、レポート				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	寄生虫検査法	糞便検査法	虫卵あるいは虫体検査法の理論を知る。
2		顕微鏡	顕微鏡の取り扱い、マイクロメータの使用法。
3		虫卵検査法	直接塗抹法による虫卵検出を実践する。
4			浮遊法による虫卵検出とスケッチ。
5		血液検査法	犬糸状虫の検査の意義と簡易検査。
6			犬糸状虫の集虫法による検査と免疫学的診断。
7			住血性原虫類の検出法としてネズミマラリアを用いた血液検査。
8		免疫学的診断	トキソプラズマやジアルジアの免疫学的診断。
9		モデル犬の健康診断	本校モデル犬の糞便検査(1)
10	外部寄生虫検査	昆虫類	ノミの標本作製と観察・スケッチ。
11		ダニ類	マダニ・その他のダニ類の観察・スケッチ。
12		人獣共通寄生虫	代表として魚類に寄生するアニサキスについて実習を行う。

科目名	動物内科看護学実習Ⅰ	履修時期	1年 3,4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45 時間
教育目標	動物臨床の現場で必要な検査の基礎知識と基本的技術を習得する.				
教育内容	動物や検体(尿や血液など)を用いて、実習を行う。				
教科書・教材	プリント、愛玩看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻				
評価法	出席状況、レポート提出、定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	診療とは	診療の流れ	診療の流れについて理解する．視診，問診，触診，聴診を理解する．
2		入院患者の管理 カルテについて	入院患者の管理およびカルテについて学習する．
3	一般臨床で行う検査	身体検査	身体検査の方法を習得する。
4		保定法	イヌやネコの保定法を理解する。
5		注射器の取り扱い 検体の処理	注射器の取り扱い方を習得する． 検体の処理方法を学習する．
6		血液塗抹標本作製 ヘマトクリット測定法	血液塗抹標本の作製方法およびヘマトクリット値の測定方法を習得する．
7		血液塗抹標本の染色・観察	血液塗抹標本を染色し、顕微鏡で観察する。
8		糞便検査	イヌやネコの検体を用いて糞便検査の方法を習得する。
9		尿検査	イヌやネコの検体を用いて尿検査の方法を習得する。
10		尿検査・薬剤感受性試験	尿を材料に薬剤感受性試験を実施し、結果の解釈を理解する。
11		心電図検査	心電図測定方法と測定時の動物の保定法を習得する．
12		まとめ	

科目名	動物形態機能学実習	履修時期	1 年 3,4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	実験動物の存在・活用、基本的な取扱方法を理解・習得する				
教育内容	実験動物の基本的な取扱を習得するとともに、保定・投与等の手技を習得し、観察力を養い、外科手術の流れを理解する				
教科書・教材	基本的な動物の取扱い、プリント				
評価法	定期試験、実習ノート、実技試験、出席状況などの総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	実験動物について	実験動物とは	実験動物の活用、飼育管理について学ぶ
2	動物の取扱	マウスの取扱	マウスの馴化・保定・個体識別法を学ぶ
3	投与法	薬剤投与法①	体重測定・腹腔内投与法を学ぶ
4		薬剤投与法② 薬剤投与法実技試験	腹腔内投与・皮下投与法を学ぶ 実技試験で自身の技術を確認する
5	麻酔管理	吸入麻酔・個体識別法	吸入麻酔の管理・永久個体識別法について学ぶ
6		麻酔薬の調整法・観察	麻酔薬の調整法について理解し、実際に麻酔をかけ麻酔状態を観察する
7	手術	手術器具・縫合糸・縫合針	種類と用途・特性について学ぶ
8		精巣摘出術	手術の流れを理解し、実践する
9		卵巣摘出術	手術の流れを理解し、実践する
10		解剖	生態についての理解を深める
11	標本	血液塗抹標本 感染症	血液塗抹法を習得する 感染症について学ぶ
12		標本観察	組織標本・スメア標本の観察

科目名	グルーミング実習 I	履修時期	1 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	犬体の美容法を学ぶことで、日常の健康管理に役立てる。 動物病院において必要なグルーミング技術や、処置前後の衛生管理技術を身につける。				
教育内容	犬の気質や犬体そのものをグルーミングを通して学び、総合的な健康管理ができるようにする。 獣医療の場において、処置の確実性・時短に繋がる被毛処理ができるようになる。				
教科書・教材	プリント				
評価法	授業態度及び出席状況、実技試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	グルーミング基礎	器具の取り扱い	器具の使い方、使用目的を理解する。
2	グルーミング実習	グルーミングの意義	なぜグルーミングが必要か説明する。
3	グルーミング実習	下準備・爪切り	嫌がる犬のコントロール方法を学ぶ。
4	グルーミング実習	バリカンの使用法	保定の方法・対処法を学ぶ。
5	グルーミング実習	耳の中の処置	安全にストレスをかけないように。
6	グルーミング実習	被毛の処置	さまざまな毛質の対応の仕方。
7	グルーミング実習	シャンプーの仕方	皮膚の状態に合わせた薬剤を使用。
8	グルーミング実習	ドライイング法	プロの仕上がりを目指す。
9	グルーミング実習	足周りの処理	ハサミの使い方を学ぶ。
10	グルーミング実習	グルーミング通し	全ての作業を短時間で安全に行う。
11	グルーミング実習	グルーミング通し	全ての作業を短時間で安全に行う。
12	実技試験		

科目名	動物看護総合実習 I	履修時期	1 年	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	60 時間
教育目標	動物病院で行われている診療の流れを知る。 動物病院での消毒や清掃を実践することにより、衛生管理の重要性を理解する。				
教育内容	動物病院ではどのような診療が行われているか、動物看護師にはどのような業務があるのかを知り、学問習得への意識を高める。 愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し実務能力を習得する。10 日間以上実地。				
教科書・教材					
評価法	動物病院実習評価表、提出物、口頭試問				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物病院実習		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			

実務経験のある教員等による授業科目の一覧（応用生物科学科動物看護コース）

科目名	実務経験	授業時数（h）
動物解剖学※	獣医師として動物病院勤務経験	25
動物病院実習Ⅰ※	獣医師として動物病院勤務	45
動物病院実習Ⅱ※	獣医師として動物病院勤務	45
動物病院実習Ⅲ	獣医師として動物病院勤務	45
動物病院実習Ⅳ	獣医師として動物病院勤務	45
応用実験動物学Ⅰ実習	企業勤務（研究部門）	45
応用実験動物学Ⅱ実習	企業勤務（研究部門）	45
合計		295

※1年次科目のため、シラバスには記載なし

全ての成績評価は、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。

２０２３年度応用生物科学科２年生

SYLLABUS

（動物看護コース）

湘央生命科学技術専門学校

目　　次

＜必修科目＞

文章表現法・・・・・・・・・・1
生化学実習・・・・・・・・・・2
薬学概論・・・・・・・・・・・3
医薬品論・・・・・・・・・・・4
食品栄養学・・・・・・・・・・5
放射線入門・・・・・・・・・・6
産業動物学・・・・・・・・・・7
野生動物学・・・・・・・・・・8
動物内科看護学・・・・・・・9
動物外科看護学Ⅰ・・・・・・10
動物外科看護学Ⅱ・・・・・・11
動物繁殖学・・・・・・・・・・12
動物臨床栄養学・・・・・・・13
動物臨床検査学・・・・・・・14
エキゾチック動物学・・・・・15
若齢動物・老齢動物管理・・16
臨床動物看護学各論Ⅰ・・・17
臨床動物看護学各論Ⅱ・・・18
臨床動物看護学各論Ⅲ・・・19
臨床動物看護学各論Ⅳ・・・20
臨床動物看護学各論Ⅴ・・・21
動物臨床検査学実習Ⅱ・・・22
動物臨床看護学実習・・・・24
動物外科看護学実習Ⅰ・・・25
動物外科看護学実習Ⅱ・・・27
救急救命対応・・・・・・・・28
動物医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・・・・29
動物看護総合演習Ⅰ・・・・30
動物看護総合演習Ⅱ・・・・32
動物飼育管理実習Ⅲ(三井)・・33
動物飼育管理実習Ⅲ(大下)・・34
動物飼育管理実習Ⅳ・・・・35
グルーミング実習Ⅱ・・・・36
動物病院実習Ⅲ・・・・・・37
動物病院実習Ⅳ・・・・・・38

＜選択科目＞

応用実験動物学Ⅰ・・・・・39
応用実験動物学Ⅱ・・・・・40
応用実験動物学Ⅰ実習・・・41
応用実験動物学Ⅱ実習・・・42
放射線概論・・・・・・・・・43

科目名	文章表現法	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	2単位	授業時間	30時間
教育目標	人はことばを使って考え、ことばを組み立てて思想を形づくる。また、ことばを使って他人に意志を伝え、ことばによって他人の意志を理解する。このことばによる表現である文章の基本を学び、文章表現の力をつけ、文章表現をとおして、我々の社会や文化に対して理解を深められるようにする。				
教育内容	現代社会は機器が生活の中に入ってきたことによって、手で文字・文章を書く機会が減り、結果、漢字が書けなくなる・文章を書く力が弱くなるということが起こっている。このことは、他人の話を聞き取る力・文章を読み取る力を弱めるところにつながっていく。この授業は、進路にかかわる実用的な文章を書くことから始め、できるだけ多くの文章を読み、文章を書く練習を多く行う。				
教科書・教材	プリント（ファイルは各自用意すること。）				
評価法	授業中の全ての提出物(添削して返却する)および授業への参加(単なる出席ではない)の度合・態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	文章表現		授業全般にわたる解説と予告。
2			文章・表現にかかわる用語解説他。
3		進路に関わる実用的文章表現	本校指定の履歴書・自己紹介の書き方を学ぶ。
4			数社のエントリーシートの書き方を学ぶ。
5			前週、練習したものを修正・補足し完成させる。
6			完成したものを清書し提出する。
7		文筆家の文章から学ぶ	よく知られている小説・随筆の一部分を正確に筆写しながら、様々な表現を学ぶ。
8		コラムの文章から学ぶ	字数が厳しく制限されている新聞のコラムを筆写しながら、段落構成やむだのない表現を学ぶ。
9		ことば・表現の乱れ	現代の日本語表現の中にある問題点について学び、自らのことば遣い・表現を見直す。
10			現代の日本語表現の中にある問題点について学び、自らのことば遣い・表現を見直す。
11		書くことを業としていない一般人の文章から学ぶ	新聞の投稿欄に現れる一般人の文章を多く読み、文章による意見表明の仕方を学ぶ。
12		意見文を書く	他人の文章を読み、そこから生まれてくる自分の考え・意見を指定の字数で文章化する。
13			自分でテーマを選び、資料を集め、800字の意見文を書く。
14			指定のテーマで自分の考えをまとめ、800字の意見文を書く。
15			(補足)進学校宛・志望書。受験小論文の書き方を学ぶ。

科目名	生化学実習	履修時期	2 年 1,2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	2 単位	授業時間	90 時間
教育目標	生化学検査における臓器別パネルについて覚える。 生化学検査項目のそれぞれの酵素について理解する。 生化学検査値の増減について学ぶ。				
教育内容	生体物質調製法や核酸、酵素について性質を調べる。 生化学検査がなぜ必要かを説明できる。 病態を評価し、パネル検査を説明できる。				
教科書・教材	プリント				
評価法	レポート				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	核酸	DNA の分離	DNA の性質を理解する。
2		実験器具、機器の取り扱い	実験器具、機器の取り扱いを習得する。
3	酵素	酵素の活性測定	酵素の取扱い、酵素の性質を理解する。
4		酵素の最適 pH	
5		酵素の活性化エネルギー	
6		Km と Vmax	
7	核酸	DNA の定量	DNA の比色定量、DNA の性質を理解する。
8	血液生化学検査	グルコース(Glu)の測定	血液生化学検査の項目、その意義を理解する。
9		コレステロール(TCHO)の測定 中性脂肪(TG)の測定	
10		総タンパク質(TP)の測定 アルブミン(ALB)の測定	
11		A/G 比(アルブミン/グロブリン比)の測定	
12		アルカリ性ホスファターゼ(ALP)の測定	
13		AST(GOT)と ALT(GPT)の測定	
14		まとめ	

科目名	薬学概論	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	薬の基礎知識を学び、創薬の世界を知ることにより、薬に興味をもつようになる。 薬の科学的知識を習得し、薬の適正使用を実践できる力を育む。				
教育内容	薬の定義、体内動態、作用メカニズムなど、さまざまな観点から薬の基礎知識を学ぶ。 奥深い創薬の世界を知り、新しい薬の概念を理解する。				
教科書・教材	くすりの科学知識（Newton別冊・改訂第3版）、プリント				
評価法	定期試験、出席率、授業態度（顕著な場合）				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	薬とは何か	薬の概念	毒と薬の関係を説明し、薬の起源や歴史を紹介する。
2			さまざまな薬の定義や特徴を紹介する。 さまざまな薬の定義や特徴を紹介する。
3	薬が患部に届くまで	薬物体内動態	薬物体内動態ついて説明する。
4		投与方法	投与経路・剤型による体内動態の違いについて述べる。
5	薬の作用と効くしくみ	作用部位	受容体と酵素のはたらきを紹介し、薬の作用メカニズムを説明する。
6		作用の多様性	薬の作用の分類を紹介する。
7			薬の作用に影響を与える要因を列挙し、解説する。
8			副作用・相互作用について述べる。
9	薬を使う	関連法規	関連法規や制度を紹介し、法律上の分類や運用方法を説明する。
10		適正使用	薬を正しく選択、使用できるよう、身近な疑問について解説する。
11	創薬	新薬開発と創薬の工夫	新薬開発の流れと問題点を説明する。
12			ドラッグデリバリーシステムやスパコン等、新しい創薬を紹介する。
13	総括	総復習	全体を復習し、補足を加える。
14		定期試験対策	定期試験のポイントを説明する。

科目名	医薬品論	履修時期	2年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	生体は恒常性がくずれると体調不良や病気の状態になる。恒常性を調節する生理活性物質について学び、恒常性の維持と代表的な薬の作用メカニズムとの関連を理解する。 また、発想の転換や地道な研究によって、画期的な薬が誕生したことを認識する。				
教育内容	恒常性と生理活性物質について学ぶ。 身近な体調不良や病気、感染症及びがんの原因とその治療薬の作用メカニズムを理解する。 画期的な創薬の研究内容について学ぶ。				
教科書・教材	くすりの科学知識（Newton別冊、改訂第3版）、プリント				
評価法	定期試験、出席率、授業態度（顕著な場合）				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	感染症	治療薬	代表的な抗生物質、抗ウイルス薬、寄生虫の薬を紹介する。
2		予防薬	代表的なワクチンについて解説する。
3		消毒薬	代表的な消毒薬を列挙し、解説する。
4	恒常性と 主な生理活性物質	恒常性	哺乳類の恒常性について解説する。
5		神経系の薬	主な神経伝達物質とその関連薬を紹介する。
6		ホルモン系の薬	主なホルモン・オータコイドとその関連薬を紹介する。
7		その他の生理活性物質と関連薬	主なビタミン、サイトカイン、ミネラルについて解説する。
8			代表的な関連薬を紹介する。
9	身近な体調不良	風邪薬と胃腸薬	市販の風邪薬と消化器系の薬について解説する。
10		生活習慣病関連薬	高血圧、心臓病、脂質異常症の薬について解説する。
11	新しい医療	がんの薬	がんの特性を理解し、従来と新しい治療薬を比較する。
12		新しい医療と薬	新しい治療法や画期的な薬を紹介する。
13	総括	総復習	全体を復習し、補足を加える。
14		定期試験対策	定期試験のポイントを説明する。

科目名	食品栄養学	履修時期	2年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	栄養学の基礎的な知識を修得する。				
教育内容	食品に含まれる栄養素の種類や化学的性質を学び、栄養素のはたらき及びからだとのかかわりを理解する。				
教科書・教材					
評価法	定期試験、小テスト、出席状況				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	栄養とは	栄養素	動物が生きてゆくために体内に取り込まなければならない必要なものについて説明する。
2	栄養素の機能と代謝	炭水化物	炭水化物の種類およびそれらの性質について説明する。また、炭水化物の消化吸収および代謝についても説明する。
3			
4			
5	栄養素の機能と代謝	脂質	脂質の種類およびそれらの性質について説明する。また、脂質の消化吸収および代謝についても説明する。
6			
7			
8	栄養素の機能と代謝	タンパク質	タンパク質の種類およびそれらの性質について説明する。また、タンパク質の消化吸収および代謝についても説明する。
9			
10			
11	栄養素の機能と代謝	ビタミン	ビタミンが三大栄養素および無機質とともに必要とされる栄養素であることを説明する。また、ビタミンの種類、性質およびそのはたらきについて説明する。
12			
13	栄養素の機能と代謝	無機質	無機質の種類、性質およびそのはたらきについて説明する。
14	栄養素の機能と代謝	水とエネルギー	水は生体の約60%を占めており、立派な栄養素であること、また、そのはたきについても説明する。
15	エネルギー代謝と食事	エネルギー代謝	食物から摂取した化学エネルギーを体内で必要なエネルギーに変換、利用して生命の維持、成長および活動していることを説明する。

科目名	放射線入門	履修時期	2年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	原子核の構造と放射線の発生メカニズムを理解し、初歩的な放射線の基礎を身につける。				
教育内容	この講座では、原子核の構造を理解して、放射線の発生メカニズムを学習する。また、身近にも放射性物質や放射線が存在することを理解して、代表的な放射線であるα線、β線、γ線の性質や社会での利用例、人体への影響などを修得する。				
教科書・教材	プリント、パワーポイント、ビデオなど				
評価法	定期試験、授業の終わりの小テスト(随時)、出席状況、授業への参加度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	物質と原子	物質の成り立ち	物質を構成する要素を理解し、周期律表の復習をする。
2		原子の構造と原子核	原子の構造を理解する。
3	放射線と放射能	放射線の種類と性質	放射線の種類のうちα線、β線、γ線について理解する。（Bqの概念を理解する）
4		放射線の性質	α、β、γ線の性質を理解し、これ以外に種類として複数の放射線があることを知る。（吸収線量と実効線量について理解する）
5	放射線と物質の相互作用	放射性物質と半減期	放射線が放射性物質からなぜ発生するのかを知り、人工的に放射線を発生させる方法を理解する。
6		いろいろな放射性物質の利用(放射性同位元素の安全取扱い)	人が利用する放射性物質について理解し、その放射性物質が発生する放射線の性質を核種毎に考える。
7		物質との相互作用	β線およびγ線の物質との相互作用について考える。
8	自然界にある放射線と放射性物質	環境放射能	環境中に存在する放射性物質や放射能はなぜ存在するのか。
9	放射線の測定	計測の基礎	なぜ、放射線が測定できるのか理解する。
10		放射線の測定方法	放射線の種類毎の測定方法の違いを理解する。
11	放射線の生物影響	影響の発生過程	放射線照射から障害が発生するまでの過程を理解する。
12		影響の種類	確定影響と確率的影響について考え、確率的影響に関係する実効線量の概念を理解する。（Svの概念を理解する）
13	放射線（放射性物質）の利用と社会の関わり	社会における放射線（放射性物質）の利用例	工業・農業・医学などの分野ごとの放射線（放射性物質）の利用について理解を深める。
14		放射線に関係する法令	原子力基本法をはじめ、放射線障害防止法などの法律により放射線の安全利用が担保されていることを理解する。

科目名	産業動物学	履修時期	2 年 2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	ヒトとのつながり、すなわち人間社会における産業動物について科学的、社会的学問として学ぶ。				
教育内容	我々の食糧源である産業動物の生産性の効率化、それに伴う環境問題と福祉について、幅広く理解するために以下の項目を教授する。				
教科書・教材	歯をめぐる生物学、神経をめぐる生物学、コミュニケーションをめぐる生物学、ダイエットをめぐる生物学				
評価法	定期試験、グループ討論				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	家畜とは	愛玩動物、産業動物	愛玩動物と産業動物の違いについて説明する。
2	産業動物とは	ヒトと産業動物	人間社会における産業動物の位置について説明する。
3	産業動物の分類	ウシ、ブタ、ニワトリ	生物学的分類位置について説明する。
4	産業動物の生産性	ウシ	生殖器の形態とその機能について説明する。
5		ブタ	
6		ヒツジ	
7		ヤギ	
8		ウマ	
9		ニワトリ	
10	産業動物のコミュニケーション	雌雄間、母子間	交尾行動、母性行動について説明する。
11			
12			
13	産業動物の病気	牛の乳房炎、豚コレラ	原因、症状、治療、予防について説明する。
14	産業動物の福祉	動物の愛護および管理	環境エンリッチメントについて説明する。

科目名	野生動物学	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	ヒトとのつながり、すなわち人間社会における野生動物について科学的、社会的学問として学ぶ。				
教育内容	野生動物の生態からヒトとのかかわりについて、広く理解を深めるために以下の項目を教授する。				
教科書・教材	コミュニケーションをめぐる生物学、ダイエットをめぐる生物学、歯をめぐる生物学、神経をめぐる生物学				
評価法	定期試験、グループ討論				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	生物とは	動物と植物	動物と植物の違いについて説明する。
2	野生動物とは	ヒトと野生動物	人間社会における野生動物の位置について説明する。
3	野生動物の分類	昆虫、鳥類、哺乳動物	生物学的分類位置について説明する。
4	野生動物のコミュニケーション	情報とコミュニケーション	送り手と受け手について説明する。
5		視覚信号とコミュニケーション	視覚器の仕組みについて説明する。 擬態、ディスプレイについて説明する。
6		聴覚信号とコミュニケーション	聴覚器の仕組みについて説明する。 超音波について説明する。
7		嗅覚信号とコミュニケーション	嗅覚器の仕組みについて説明する。 匂いの物質について説明する。
8	野生動物の食性	草食・肉食・雑食動物	採食行動について説明する。
9	野生動物の消化器系	草食動物	消化器の形態と機能について説明する。
10		肉食動物	消化器の形態と機能について説明する。
11	野生動物とインフルエンザ	スペインかぜ、SARS、MERS	感染経路について説明する。
12			
13	野生動物と農作物被害	森林・水産被害	被害状況とその対策について説明する。
14	野生動物の絶滅危惧	希少動物種	希少動物の保護活動について説明する。

科目名	動物内科看護学	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	病気の動物を診察してその病気の原因を明らかにすると共に、適切な診断および治療法を確立することが動物内科看護学の目的である。各疾患の基礎知識を習得することを目標とする。				
教育内容	獣医臨床において遭遇する機会の多い内科学疾患を臓器別にそれぞれ説明する。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	内科疾患について	循環器の疾患	心臓の解剖および機能を理解し、心臓病の病態を理解する。心疾患の検査方法とその解釈を理解する。
2		循環器の疾患	各種先天性および後天性心疾患の病態について理解する。心疾患（特に後天性心疾患）の治療について理解する。
3		呼吸器の疾患	呼吸器の役割を理解し、呼吸器疾患の原因や病態を理解する。
4		呼吸器の疾患	鼻腔、気道、肺の疾患のそれぞれの臨床徴候、検査方法とその解釈および治療法を理解する。
5		内分泌の疾患	各種ホルモンの分泌臓器およびその役割を理解する。
6		内分泌の疾患	代表的な内分泌疾患の臨床徴候や病態、治療法を理解する。
7		泌尿器の疾患	泌尿器の機能を理解する。 泌尿器疾患の原因および病態について理解する。
8		泌尿器の疾患	代表的な泌尿器疾患の臨床徴候および治療法を理解する。
9		消化器（消化管）の疾患	消化管機能を理解する。代表的な消化管疾患の原因および病態を理解する。
10		消化器（消化管）の疾患	各消化器疾患の臨床徴候および治療法を理解する。
11		消化器（肝・胆・膵）の疾患	消化器（肝・胆・膵）疾患の病態および治療法を理解する。
12		ワクチン	ワクチンの目的、種類、ワクチンプログラムを理解する。ワクチンに組み込まれているウイルス疾患の病態を理解する。
13		イヌ糸状虫症について	イヌ糸状虫症のライフサイクル・病態・予防等を理解する。
14		まとめ	

科目名	動物外科看護学Ⅰ	履修時期	2年3期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	各臓器のどのような疾患に外科的処置が必要となるか知り、その処置方法にはどのようなものがあるかを知る。そのうえで、処置後に起こり得る変化および対処方法を理解する。そして、順調な回復のための動物管理の重要性を知る。				
教育内容	各臓器に生じる外科疾患にはどのようなものがあるかを説明できるようになる。また、各異常の診断や治療の方法にはどのようなものがあるかを理解でき、実施のための準備、補助などを述べられるようになる。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻				
評価法	定期試験、授業態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	消化器疾患	胃、小腸の外科疾患	胃および小腸の外科疾患の特徴および診断、治療、看護方法について説明する。
2		大腸の外科疾患	大腸の外科疾患の特徴および診断、治療、看護方法について説明する。
3		肝臓、胆嚢の外科疾患	肝臓、胆嚢の外科疾患の特徴および診断、治療、看護方法について説明する。
4		肛門、脾臓の外科疾患	肛門、脾臓の外科疾患の特徴、診断、治療、看護方法について説明する。
5	生殖器疾患	雌の生殖器疾患	卵巣、子宮の外科疾患について臨床症状、診断、治療、看護方法を説明する。帝王切開の方法および準備、補助方法を説明する。
6		雌の生殖器疾患	乳腺の外科疾患について臨床症状、診断、治療、看護方法を説明する。
7		雄の生殖器疾患	精巣、前立腺の外科疾患について臨床症状、診断、治療、看護方法を説明する。
8		不妊、去勢手術・帝王切開	不妊手術、去勢手術、帝王切開について意義・方法を説明する。
9	泌尿器疾患	腎臓、尿管の外科疾患	腎臓、尿管の外科疾患の臨床症状、診断、治療、看護方法を説明する。
10		膀胱、尿道の外科疾患	膀胱、尿道の外科疾患の臨床症状、診断、治療、看護方法を説明する。
11	呼吸器疾患	咽喉頭、気管、肺の外科疾患	咽喉頭、肺、気管の外科疾患について臨床症状、診断、治療、看護方法について説明する
12	ヘルニア	体表に発生するヘルニア	体表に発生するヘルニアの臨床症状、診断方法、治療、看護方法について説明する。
13	骨疾患	骨疾患	骨疾患の臨床症状、診断、治療、看護方法について説明する。
14		関節疾患	関節疾患の臨床症状、診断、治療、看護方法について説明する。

科目名	動物外科看護学Ⅱ	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備・手術補助・術後管理までの流れを理解し安全な手術の実施に必要な知識を習得する。				
教育内容	外科診療の補助に必要な知識・技術を学習する。また、問題解決能力や実践能力、応用力を身につける。				
教科書・教材	動物看護実習テキスト第 2 版				
評価法	定期試験、出席状況				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	外来診療看護業務	入退院手続き	主訴の確認、カルテの作成、入退院手続きについて学ぶ。
2	入院診療業務①	入院看護(犬猫)	入院室準備・管理、入院室清掃、飼い主様のメンタル管理について学ぶ。
3	入院診療業務②	入院看護 (エキゾチックアニマル)	入院室準備・管理、入院室清掃、飼い主様のメンタル管理について学ぶ。
4			
5	周術期看護関連業務	術前看護①	術前検査について学ぶ。
6			
7		術前看護②	器具・機械準備、滅菌、手術室準備について学ぶ。
8			
9		術中看護①	器具・機械出し、術中患者の看護、麻酔管理補助、手術助手の役割について学ぶ。
10			
11		術中看護②	器具・機械出し、術中患者の看護、麻酔管理補助、手術助手の役割について学ぶ。
12			
13		術後看護	麻酔期からの覚醒、手術器具の片付け、疼痛管理、術部管理について学ぶ。
14			

科目名	動物繁殖学	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	犬・猫を主に動物の生殖器構造機能の相違点を理解する。雌・雄の解剖学的生殖器の違いを理解し、生殖機能としての生命の働きと営みの関連を系統だてて修得する。生殖器の発生と性の決定と分化を認識し、繁殖生理・性行動・妊娠・分娩・および避妊と去勢の意義を理解する。助産と疾病予防の認識をし、常に動物と共存するための基本的知識をはぐくめる指導者になれるよう、やさしい繁殖生理を修得する。				
教育内容	生殖器系の生理と内分泌系における性周期を述べ、雄雌の生殖器構造と性分化の過程を説明する。犬と猫の発情周期と性行動を把握させる。犬猫以外の生殖器の構造と性行動を述べる。受精と妊娠および妊娠診断、正常分娩および異常分娩とその対処について説明する。産褥期の母体管理及び新生子の管理を修得する。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	繁殖器系生体生理学	繁殖生殖器の構造	雄の生殖器の構造を理解し、動物種による違いを修得する。
2		繁殖生殖器の構造	雌の生殖器の構造を理解し、動物種による違いを修得する。
3		性の決定	性がどのように決定するか、生命体の神秘を説明する。
4		性の分化・遺伝	性の分化がもたらす過程を熟知し、複数決定分化のかかわりを述べる。遺伝の仕組みと DNA 分裂を説明する。
5		性腺機能の調節	雄性性腺機能の内分泌について説明する。
6		性腺機能の調節	雌性性腺機能の内分泌について説明する。
7		性周期	卵巣周期(卵胞・黄体の機能と周期による変化)・発情周囲その他の周期を述べる。
8		性周期	交配適期・診断・膣スメアの診断と身体一般検査の要領を理解し、補助の熟知をする。
9	受精から分娩	受精から妊娠までの仕組み	繁殖の仕組みを説明する。
10		受精から妊娠までの仕組み	出産における内分泌の仕組みを説明する。
11		分娩の仕組み	分娩の正常と異常、注意することを述べる。
12		新生児の看護	新生児の看護と扱い方の指導。
13	生殖器系疾患	生殖器系疾患	雄の疾患：原因と症状と治療・対処・看護
14		生殖器系疾患	雌の疾患：原因と症状と治療・対処・看護

科目名	動物栄養学	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	食事はただのエネルギー源としてだけではなく、ある疾患においては治療の一部の役割も担っている。食事を栄養学の観点から学び、食事の重要性について理解することを目標とする。				
教育内容	栄養素の体内での役割と消化および吸収過程を説明する。 動物のライフステージごとに必要な栄養素について説明する。 ペットフードの定義、種類および添加物について説明する。各種療法食の役割を説明する。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験、出席状況				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	栄養素	三大栄養素	炭水化物、蛋白質、脂肪の役割を理解する。
2		ビタミン・ミネラル	ビタミンおよびミネラルの種類とその役割を理解する。
3		消化と吸収	消化および吸収の過程を理解する。
4	健康維持と栄養	健康維持プログラム	動物が健康を維持し長生きするために必要なことを理解する。
5		ライフステージにおける栄養	授乳期から老齢期までそれぞれの時期の生理状態に必要な栄養素とそれに見合ったフードを理解する。
6		イヌネコの肥満	肥満の定義、ボディコンディショニングスコアを理解する。 肥満の予防・改善方法を理解する。
7	ペットフード	ペットフードについて	ペットフードの定義や種類を理解する。 ペットフードの製造・管理・原材料などを理解する。
8		ペットフードの添加物	ペットフードに使用される添加物とその使用目的を理解する。
9	食事療法	尿石症の食事療法	尿石症の原因と使用される療法食の役割について理解する。
10		糖尿病の食事療法	糖尿病の原因と使用される療法食の役割について理解する。
11		消化器疾患の食事療法	代表的な消化管疾患の病態を理解し、利用できる療法食の種類や与え方を理解する。
12		慢性心臓病の食事療法	慢性心臓病患者に利用される療法食の役割を理解する。
13		慢性腎臓病の食事療法	慢性腎臓病患者に利用される療法食の役割を理解する。
14		がんの食事療法	がん患者の必要な栄養素や食事の与え方について理解する。

科目名	動物臨床検査学	履修時期	2 年 3 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	生体から得られた各種材料を無駄なく採取し、補助としても病院でのスムーズな検査工程が遂行出来るように、採取材料の取り扱いの意義を修得する。基本的な知識、およびスクリーニング検査、特殊検査の知識を修得し、生体に及ぼす影響を理解する。生体検査は迅速かつ正確な情報の提供ができるよう、常に動物の最善の状態を認識する。				
教育内容	生体検査の主な種類と意義を理解する。血液検査、血液生化学検査、糞便検査、尿検査、細胞診における検査意義を理解し、正常値、異常値および動物の生体異常の認識を常に持てるように、病院臨床の応用と関連つけた指導でわかりやすく説明をする。生体検査での機器の操作に準じた、安全かつ正確な動物の扱い方を述べ、検査意義の修得をするとともに、動物の生体状況が検査値より認識・読影できるようにする。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	臨床検査	眼科耳鼻科検査	耳垢・外部寄生虫・各種眼科染色テストの意義を述べる。
2		皮膚科検査	免疫検査・スクレーピング検査・培養・細胞診を説明する。
3		血液検査	スクリーニング検査の意義を述べる。 採取、処理の認識を熟知する。
4		血液検査	採血準備・塗抹方法について述べる。 細胞の観察を熟知し、細胞分類を説明する。
5		血液検査	HT 値・CBC・生化学検査の意義をのべる。正常値を熟知し、異常値での疾病との関連を理解できるように説明する。
6		顕微鏡検査・糞便検査	顕微鏡の扱い方を熟知し、糞便の肉眼的検査での異常値および客観的な情報を説明する。
7		糞便検査	糞便検査での化学的検査の意義と主義を熟知し、正確な情報からの生体の状況を説明する。
8		尿検査	尿の採取による検査意義の違いを説明し、各検査内容を把握しながら、異常値を熟知する。
9		尿検査	尿の遠心機器を使用し、いかに的確な作業が欲しられているか説明する。
10		骨髄検査	骨髄検査野特殊技法について説明し、補助の意義を述べる。
11	生体検査	X 線検査・CT・MRI	レントゲン・CT・MR での動物の扱い方を熟知し、読影方法及びアーティファクトについて説明する。
12		心電図検査	操作方法及び動物の保定と生態に対する安全かつ安心の操作について述べる。
13		超音波検査	補助についての知識を理解し、 常に動物の状態を平静に保てる知識を熟知する。
14		内視鏡検査	特殊検査での動物の扱い方の熟知と検査目的の意義を述べる。

科目名	エキゾチック動物学	履修時期	2年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	エキゾチックといわれる動物への理解、愛玩動物飼養管理士で学んだ適正飼養を再確認しながら、適正かつ適切な看護や疾病や事故予防のための知識を学ぶ。また、動物看護士試験への対策に重点を置きながら一般のエキゾチックアニマル愛好家へ健康面からアドバイスが適切にできる基本を習得する。				
教育内容	一学年時に学んできた知識をエキゾチックアニマルへも応用できるよう、各学科の関連性をも学習しながら理解を深める。また、基本となるイヌやネコとの比較も行いながら学習することで、動物全般に関わる基礎的知識や応用能力を高め、実践に備えるべき資質を構築する。				
教科書・教材	プリント、動物看護のコアテキスト第4巻 動物の行動と健康管理、愛玩動物飼養管理士2級教本 カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編/鳥類編（参考図書）				
評価法	出席状況、授業態度、定期試験など				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	エキゾチック動物とは	一般的なエキゾチック動物の分類と種類について（食性を中心にした分類とその違い）	環境と体内適応・体外適応、食性でみる動物の特徴や習性
2	雑食性小型哺乳類	ハムスター・マウス（ラット）	分類・適正飼養・疾病予防と看護
3	雑食性小型哺乳類	リス・モモンガ	分類・適正飼養・疾病予防と看護
4	肉食性小型哺乳類	フェレット	分類・適正飼養・疾病予防と看護
5	虫食性小型哺乳類	ハリネズミ	分類・適正飼養・疾病予防と看護
6	草食性小型哺乳類	ウサギ	分類・適正飼養・疾病予防と看護
7	草食性小型哺乳類	モルモット	分類・適正飼養・疾病予防と看護
8	草食性小型哺乳類	チンチラ、デグー	分類・適正飼養・疾病予防と看護
9	鳥類の特徴	鳥類の特徴と分類	鳥類と哺乳類との違いと特徴
10	鳥類の分類	鳥類の種類と食性	鳥類の種類と食性
11	愛玩鳥の飼養管理	育雛方法と疾病予防	雛の育雛と日常の疾病予防
12	オウム目	インコオウム	分類・適正飼養・疾病予防と看護
13	スズメ目	フィンチおよびカナリア	分類・適正飼養・疾病予防と看護
14	両生類・爬虫類・観賞魚	両生類・爬虫類・観賞魚の基礎知識	基本の飼養管理方法と疾病予防応

科目名	若齢動物・老齢動物管理	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	若齢期の動物、老齢期の動物に対する看護、援助について理解する。				
教育内容	若齢期、老齢期にはそれぞれ特有の疾患や、身体的、生理的特徴がある。それを理解し、必要な援助、看護について学ぶ。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	若齢動物の管理	若齢動物について①	若齢期の身体的変化や特徴について理解できる。
2	老齢動物の管理	老齢動物について①	老齢期の身体的変化や特徴について理解できる。
3	若齢動物の管理	若齢動物について②	若齢期の身体的変化や特徴について理解できる。
4	老齢動物の管理	老齢動物について③	老齢期の身体的変化や特徴について理解できる。
5	若齢動物の管理	幼齢動物の健康チェック	幼齢動物の身体的特徴、チェックポイントについて理解できる。
6	老齢動物の管理	老齢動物の健康チェック	老齢動物の身体的特徴、チェックポイントについて理解できる。
7	若齢動物の管理	新生子のケア	人工哺育について飼育環境、排泄や食事援助について理解できる。
8	老齢動物の管理	老齢動物のケア	老齢期の適切な飼育環境について理解できる。
9	老齢動物の管理	老齢動物の介護	老齢動物の日常管理、介護について理解できる。
10	老齢動物の管理	老齢動物の介護	老齢動物の日常管理、介護について理解できる。
11	老齢動物の管理	老齢動物の介護	老齢動物の日常管理、介護について理解できる。
12	若齢動物の管理	若齢動物の疾患	若齢動物に見られる疾患とその看護、援助について理解できる。
13	老齢動物の管理	老齢動物の疾患	老齢動物に見られる疾患とその看護、援助について理解できる。
14	若齢老齢動物の管理	まとめ	まとめ

科目名	臨床動物看護学各論Ⅰ	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	小動物診療の中心となる犬および猫の皮膚病を理解することにより、より質の高い動物看護が実施できることを目指す。また、ズーノーシスを含めて感染性疾患を理解することにより、動物だけでなく、飼い主様、そして自分自身の健康を守らなければいけない立場に立つことを認識する。また、この知識をもとに飼い主様へより質の高い対応ができる力を養う。				
教育内容	皮膚の構造および機能がどうなっているのかということから始まり、そこに生じる異常の原因や進行過程を学び、さらに異常の診断や治療はどのように行われるのかを説明できるようになる。また、診断や治療のための準備および補助などを述べられるようになる。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻				
評価法	定期試験、授業態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	皮膚疾患の基礎	皮膚の構造と機能	皮膚疾患が生じる皮膚の構造を説明する。 皮膚の持つ機能を説明する。
2	皮膚疾患の診察	皮膚疾患の診断方法	皮膚病で来院した患者様への問診の方法を列挙し、皮膚疾患の視診について説明する。
3		皮膚疾患の検査方法	皮疹の種類とその臨床的意味を説明する。
4		皮膚疾患の検査方法	皮膚疾患の各種検査方法について説明する。
5	皮膚の代表的な疾患	感染性皮膚疾患	真菌性皮膚疾患について説明し、看護時の注意点を説明する。
6		感染性皮膚疾患	寄生虫性皮膚疾患について説明し、看護時の注意点を説明する。
7		感染性皮膚疾患	細菌性皮膚疾患について説明し、看護時の注意点を説明する。
8		感染性皮膚疾患	ズーノーシスを含めて感染性皮膚疾患の管理について説明する。
9		内分泌性皮膚疾患	内分泌性皮膚疾患を全身性の変化を含めて説明し、看護時の注意点を説明する。
10		遺伝性皮膚疾患・代謝性皮膚疾患	遺伝性及び代謝性皮膚疾患を説明し、看護時の留意点を説明する。
11		免疫関連性皮膚疾患	アレルギー性皮膚疾患について説明し、看護時の留意点について説明する。
12		免疫関連性皮膚疾患	免疫介在性皮膚疾患について説明し、看護時の留意点について説明する。
13	皮膚疾患の治療法	皮膚疾患の全身療法、局所療法	内服薬、外用薬、シャンプーなどの治療法を説明する。
14	かゆみ	痒みの管理	痒みの発生機序と原因疾患および管理方法を説明する。

科目名	臨床動物看護学各論Ⅱ	履修時期	2 年 2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	小動物臨床で近年とても問題になってきている歯周病および眼科疾患を中心に、小動物の口腔および眼に生じる種々の異常を理解する。さらに、その管理には日々のケアーが必要なことを認識する。この知識をもとに飼い主様へより質の高い対応ができる力を養う。				
教育内容	口腔、眼の構造を知るとともに、その生理や機能を説明できるようになる。さらに、口腔および眼に生じる種々の異常の種類および臨床症状、診断方法、治療方法を理解でき、診断や治療の準備、補助方法などを述べられるようにする。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻				
評価法	定期試験、授業態度				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	口腔疾患の基礎	口腔および歯の解剖・機能	口腔の解剖および機能について説明する。
2	口腔疾患の診察	口腔検査	口腔および歯の検査に使用される器具の種類、使用方法について説明する。
3		口腔内疾患	歯周病について臨床症状、検査、診断方法について説明する。
4		口腔内疾患	歯牙疾患について臨床症状、検査、診断、処置、看護方法を説明する。
5		口腔内疾患	口腔内に発生する腫瘍、口蓋裂について臨床症状、検査、診断、処置、看護方法を説明する。
6	口腔疾患の予防・治療	予防処置	歯周病予防のための口腔内処置の方法および準備、補助方法について説明する。
7		口腔処置および歯科処置	口腔の外科手術および歯牙疾患の処置、管理について説明し、その準備、補助方法について説明する。
8	眼科疾患の基礎	眼の解剖および生理	眼の解剖および機能について説明する。
9	眼科疾患の診察	眼の検査	眼科検査の方法および検査時の保定方法について説明する。
10		眼の検査	眼の検査に使用される器具の種類、使用方法について説明する。
11	眼の代表的な疾患	眼瞼、角膜の疾患	眼瞼、角膜の疾患について臨床症状、検査、診断の処置方法について説明する。
12		結膜、瞬膜の疾患	結膜、瞬膜の疾患について臨床症状、検査、診断の処置方法について説明する。
13		ブドウ膜、水晶体の疾患	ブドウ膜、水晶体の疾患について臨床症状、検査、診断方法について説明する。
14		網膜の疾患	網膜の疾患について臨床症状、検査、処置、診断方法について説明する。

科目名	臨床動物看護学各論Ⅲ	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	疼痛管理を含めて周術期の動物看護について学ぶ。 高齢動物および皮膚や運動器あるいは消化器などに異常をもつ動物の特徴と看護方法を学ぶ。				
教育内容	疼痛を含めて周術期におこりうる問題を理解し、問題対処時の補助方法が説明できるようになる。特に麻酔の準備および補助の方法を説明できるようになる。 高齢動物をはじめ、かゆみや嘔吐あるいは運動障害などの異常をもつ動物の特徴を理解し看護方法を説明できるようになる。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻				
評価法	定期試験　授業態度				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満を不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	創傷	創傷の種類・治癒機転	創傷の種類を説明する。創傷治癒の機序について説明する。
2		創傷の管理	創傷の処置方法と開放創の治癒までの管理方法を説明する。
3	耳	耳道疾患	耳道の構造と機能を説明し、耳道疾患の検査、診断、治療方法を説明する。
4	嘔吐	嘔吐の管理	嘔吐の原因を説明し、検査方法・治療方法を説明する。
5	高齢動物	高齢動物の管理	高齢動物の特徴を説明し、看護方法を説明する。
6		高齢動物の管理	高齢動物に多い疾患、問題点およびその看護方法を説明する。
7	運動障害	運動障害のある動物の看護	運動障害を起こす可能性のある疾患について説明する。
8		運動障害のある動物の看護	運動障害のある動物の看護方法について説明する。
9	周術期管理	術前管理	術前の動物の検査、処置、看護方法について説明する。
10		麻酔	麻酔薬および全身麻酔実施時の管理方法について説明する。
11		術中管理	術中の動物のモニタリングおよび看護方法を説明する。
12		術中管理	術中の動物のモニタリングおよび看護方法を説明する。
13		疼痛管理	疼痛の発生機序と生体に与える影響を説明する。周術期の疼痛管理の方法について説明する。
14		術後管理	栄養管理を含めて術後の動物の看護方法について説明する。

科目名	臨床動物看護学各論Ⅳ	履修時期	2 年 3 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	獣医療に関わる専門職である動物看護師の職務について、また様々な症状の動物に対する看護介入、援助について理解できる。				
教育内容	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として重要な役割を担う。動物看護師の職務を知り、種々の症状を呈する動物に対して、その疾患について理解するとともに、どのような看護介入、援助を行うことができるかを学ぶ。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物看護学概論	動物看護師の職務と動物看護倫理	動物看護師の職務と、倫理綱領について理解できる。
2	動物看護技術の基盤	動物看護の観察、記録と報告	動物看護の観察、記録と報告の方法について理解できる。
3	症状別の動物看護	食欲不振の動物看護	食欲不振を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
4			
5			
6	症状別の動物看護	多飲多尿	多飲多尿を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
7			
8			
9	症状別の動物看護	循環機能障害	循環機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
10			
11			
12			
13	症状別の動物看護	呼吸機能障害	呼吸機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
14			

科目名	臨床動物看護学各論Ⅴ	履修時期	2 年 4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	様々な症状の動物に対する看護介入、援助について理解できる。				
教育内容	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として重要な役割を担う。動物看護師として種々の症状を呈する動物に対して、その疾患について理解するとともに、どのような看護介入、援助を行うことができるかを学ぶ。				
教科書・教材	プリント				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	症状別の動物看護	呼吸機能障害	呼吸機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
2			
3	症状別の動物看護	栄養摂取、代謝障害	栄養摂取、代謝障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
4			
5	症状別の動物看護	生体防御機能障害	生体防御機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
6			
7			
8	症状別の動物看護	神経運動機能障害	神経運動機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
9			
10	症状別の動物看護	繁殖機能障害	繁殖機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
11			
12	症状別の動物看護	排泄機能障害	排泄機能障害を引き起こす原因疾患について学び、その際の看護介入援助について理解できる。
13			
14			

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ	履修時期	2 年 2,3 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	診療現場で必要な検体検査および生体検査に関する意義を理解する。手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を修得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を、解剖学、生理学知識とともに、検体検査および生体検査の各目的を理解し、検査を実践できる。				
教育内容	採取した検体を用いた検査では、尿検査、糞便検査の方法を理解し、実践する。基礎的一般身体検査で正常・異常の違いを理解する。眼検査、耳鼻科検査、皮膚検査における看護師としての動物の扱い方および保定を修得する。犬およびエキゾチックアニマルの検査における保定と検査の方法を実践する。検体採取および衛生管理を理解する。動物看護師として臨床検査の準備および検査の流れを修得する。				
教科書・教材	プリント （参考資料）動物看護実習テキスト・エキゾチックアニマル哺乳類編・小動物獣医看護学・小動物看護概論				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	一般身体検査	臨床検査　総論	臨床検査の目的と意義について理解する。
2		臨床検査　概論	生態の観察と検査項目を理解する。
3		眼科検査Ⅰ	眼科身体検査の項目・評価と正常値、分泌物の評価をする。
4		眼科検査Ⅱ	眼科染色法・流涙検査の実施と評価をする。
5		耳科検査Ⅰ	耳科身体検査の項目・評価と正常、異常の違いを理解する。
6		耳科検査Ⅱ	耳科検査における分泌物採材方法と検査を実施する
7		口腔・歯科検査Ⅰ	口腔・歯科検査の項目・評価と正常、異常を理解する。
8		口腔・歯科検査Ⅱ	口腔・歯科検査の臨床的検査方法と手当の仕方を実践する。
9	肉眼・物理・顕微鏡	顕微鏡検査Ⅰ	顕微鏡概論・適切な顕微鏡の操作および操作法を実践する。
10		顕微鏡検査Ⅱ	接眼レンズ・対物レンズ・倍率・明るさの調節と標本作成。
11		糞便検査Ⅰ	糞便検査概論・糞便検査の意義と検査方法を理解する。
12		糞便検査Ⅱ	肉眼的検査・化学的検査・顕微鏡学的検査・染色法・集卵法。
13		尿検査Ⅰ	尿検査概論・尿検査の意義と検査方法を理解する。
14		尿検査Ⅱ	肉眼的検査・化学的検査・顕微鏡学的検査・染色法・尿沈渣。

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ	履修時期	2 年 2,3 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	講義で修得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身に付ける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるように繰り返し実習し、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるように理解する。常に検査結果を基準値と比べ、異常値の場合は獣医師に報告できるように一連の流れを修得する。さらにデータをまとめ飼い主に提示し、検査内容について説明できるように実践する。検体の扱い方、保存法および検査後の検体処理、医療廃棄物の区別を実施する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を、解剖学、生理学知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を修得する。				
教育内容	採取した検体を用いた検査では、尿検査、糞便検査、血液検査の方法を理解し、実践する。基礎的一般身体検査で正常・異常の違いを理解する。眼検査、耳鼻科検査、皮膚検査における看護師としての動物の扱い方および保定を修得する。犬およびエキゾチックアニマルの検査における保定と検査の方法を実践する。生体検査では心電図・超音波検査・レントゲン検査の方法を理解する。				
教科書・教材	プリント （参考資料）動物看護実習テキスト・エキゾチックアニマル哺乳類編・小動物獣医看護学・小動物看護概論				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	一般身体検査	臨床検査　応用	生態の観察と検査項目を理解し、実践する。
2		臨床検査　復習	眼科・耳科検査の項目・評価と正常値　分泌物の評価をする。
3		皮膚科検査	皮膚の肉眼的検査・被毛検査・スクレーピング。
4		一般身体検査の総復習	眼科･耳科･歯科検査の臨床的検査方法と手当の仕方を実践する。
5	肉眼・物理・顕微鏡	糞便検査Ⅰ	糞便検査概論・糞便検査の意義と検査方法を理解する。
6		糞便検査Ⅱ	肉眼的検査・化学的検査・顕微鏡学的検査・染色法・集卵法。
7		尿検査Ⅰ	尿検査概論・糞便検査の意義と検査方法を理解する。
8		尿検査Ⅱ	肉眼的検査・化学的検査・顕微鏡学的検査・染色法・沈渣。
9		血液検査Ⅰ	血液検査の意義.・採血法・保存法・処理方法。
10		血液検査Ⅱ	血液塗抹方法・ヘマトクリット管方法の実践。
11		血液検査Ⅲ	CBC・血液生化学検査の実践。
12		心電図・超音波	心電図・超音波検査の保定・検査方法の実践。
13		レントゲン検査	レントゲン検査の保定・検査方法の実践。
14		臨床生体検査まとめ	臨床検査の総復習。

科目名	臨床動物看護学実習	履修時期	2 年 1,2 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	1 年時の看護実習で学んだ内容を復習しながらさらに理解を深める。				
教育内容	動物や検体(尿や血液など)を用いて実習を行う。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、レポート提出、定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	一般臨床で行う検査	診療について	一般診療の流れやカルテについて理解する。
2		身体検査	身体検査方法を習得する。
3		保定（診療時、採血時）	普段の診察での保定法や採血時の保定法を習得する。
4		血液塗抹標本作製（塗抹・染色）	血液塗抹標本の作製および染色ができるようになる。
5		血液塗抹標本観察	塗抹標本中の細胞の特徴を理解し鑑別できるようになる。
6		輸血・クロスマッチ	輸血についての知識を深める。 イヌの血液を用いてクロスマッチを実施し、方法を習得する。
7		食事・薬の経口投与法	食事の強制給餌方法や薬の経口投与法を習得する。
8		輸液量・投薬量の計算	輸液や薬剤量の計算、錠剤の分割法などを習得する。
9		療法食	療法食の特徴を理解し、投与量を計算できるようになる。
10		尿検査	尿検査ができるようになる。
11		糞便検査	糞便検査ができるようになる。
12		点滴・注射	静脈点滴の準備や注射器の扱い方などを習得する。
13		X 線検査（保定．読影の基本）	X 線検査時の保定法および基本的な読影法を理解する。
14		総合実習	

科目名	動物外科看護学実習Ⅰ	履修時期	2年3,4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45時間
教育目標	麻酔および手術の必要性および危険性を理解する。そのうえで、周術期の管理の重要性および実施方法を理解し、必要な技術を習得する。				
教育内容	麻酔・手術に必要な器具機材および薬品について述べられるようになり、麻酔および手術の準備に熟練する。また、麻酔および手術中の補助方法や動物のモニタリング方法が説明できるようになる。さらに術後の動物および施設あるいは器具機材の管理について説明できるようになる。				
教科書・教材	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻				
評価法	定期試験、授業態度、実地試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満を不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	麻酔・手術	麻酔・手術の必要性、危険性および準備方法の概要を説明する。
2	術前管理	施設（手術室）管理	手術室の構造、手術室の機器、手術室の準備および使用後の作業について説明する。
3	術前管理	麻酔・手術を受ける動物の管理	安全に麻酔・手術を実施するために必要な術前の動物管理について説明する。
4	術前管理	麻酔・手術を受ける動物の管理	術前に必要な画像検査の補助について説明する。
5	術前管理	麻酔・手術のための器具機器の準備と使用後の管理	麻酔・手術を実施する直前の器具機材の準備および使用後の管理について説明する。
6	術前管理	手術器具	各種手術器具の名称と使用方法・使用後の管理について説明する。
7	術前管理	手術機材	術衣、ドレープの準備および使用後の管理について説明する。
8	術前管理	消毒・滅菌	手術に必要な器具機材の消毒、滅菌について説明する。
9	術前管理	手術に関係する人の準備	手術に参加する人の準備および手術室での心得について説明する。
10	術前管理	手術に関係する人の準備	手洗い方法を習得する。
11	術前管理	手術に関係する人の準備	手袋の装着方法を習得する。
12	術前管理	手術に関係する人の準備	術衣の着用方法を習得する。
13	術前管理	麻酔導入・管理	麻酔の導入および維持管理の準備・補助について説明する
14	術前管理	術野の準備	手術時の保定、術野消毒を含めた準備の方法を習得する。

15	術中管理	麻酔管理補助	麻酔カルテの記入方法を習得する。
16	術中管理	麻酔管理補助	各種モニター機器の意義を説明する。
17	術中管理	麻酔管理補助	各種モニター機器の装着方法および見方を習得する。
18	術中管理	手術補助	術中の外回りの必要性を説明する。
19	術中管理	手術補助	手術中の器具出しを習得する。
20	術中管理	手術補助	手術の助手の役割を説明する。
21	術中管理	手術補助	基本的な手術器具の使用方法を習得する。
22	術後管理	手術補助	基本的な結紮方法を習得する。
23	術後管理	麻酔管理補助	麻酔覚醒時の管理の重要性と管理方法を説明する。
24	術後管理	手術・麻酔管理補助	手術当日の麻酔覚醒後の管理の重要性と管理方法を説明する。
25	術後管理	手術・麻酔管理補助	術後の入院期間中の管理について説明する。
26	術後管理	包帯法	包帯方法について説明する。
27	術後管理	包帯法	包帯方法を習得する。
28	術後管理	手術補助	術後の理学療法について説明する。

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ	履修時期	2 年 3,4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	外科看護の基本的手技に応用力をつけ、より質の良い看護法を身につける。				
教育内容	動物病院での外科看護に必要な知識・技術を学習する。また、問題解決能力や実践能力、応用力を身につける。				
教科書・教材	動物看護実習テキスト、プリント				
評価法	定期試験、小試験、授業態度				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	周術期看護関連業務	術前看護	予防手術について学ぶ。
2	周術期看護関連業務	術前看護	口腔看護について学ぶ。
3	周術期看護関連業務	術前看護	術前検査について学ぶ。
4	周術期看護関連業務	術前看護	術前検査について学ぶ。
5	周術期看護関連業務	術前看護	ドレープ・術衣の使用目的、管理、準備の方法を理解する。
6	周術期看護関連業務	術前看護	滅菌方法について学ぶ。 手洗い法、グロービング法、手術着の装着法を習得する。
7	周術期看護関連業務	術前看護	薬の準備・留置針・点滴について学ぶ。
8	周術期看護関連業務	術中看護	エキゾチックアニマルに対しての手術の流れを学ぶ。
9	周術期看護関連業務	術中看護	モニター機器の仕組みを理解し、適切な操作法を習得する モニター数値の正常と異常、対処・報告を理解する。
10	周術期看護関連業務	術中看護	手術助手、器械出し、外回りの仕事を理解する。
11	周術期看護関連業務	術後看護	術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理を理解する。
12	周術期看護関連業務	術後看護	包帯法について学ぶ。
13	周術期看護関連業務	術後看護	リハビリテーションについて学ぶ。
14	実技テスト		

科目名	救急救命対応	履修時期	2 年 3 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し、救急救命に活かせるようになる。				
教育内容	いつ、どのような状態で起こるかわからない救急事態には、動物病院スタッフのチームワークが重要かつ必須である。そのような状況の際に迅速に適切な対処ができるように、必要な知識、技術について学ぶ。				
教科書・教材	資料(プリント配布)				
評価法	定期試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	エマージェンシー	エマージェンシー時のバイタルサイン	エマージェンシー時のバイタルサインとモニタリングについて理解できる。
2	エマージェンシー		
3	エマージェンシー	トリアージ	トリアージの判定基準と分類を理解できる。
4	エマージェンシー	心肺停止と心肺蘇生	心肺停止について学び、心肺蘇生法について理解する。
5	エマージェンシー		
6	エマージェンシー	エマージェンシー時に使用する薬剤	エマージェンシー時に使用される薬剤、輸液、輸血について理解する。
7	エマージェンシー		
8	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	中毒疾患について理解できる。
9	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	誤飲、誤食について理解できる。
10	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	外傷について理解できる。
11	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	熱中症について理解できる。
12	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	日常生活で起こり得る事故について理解できる。
13	救急救命疾患	救急疾患とその看護介入	その他の救急疾患について理解できる。
14	救急救命疾患		

科目名	動物医療コミュニケーション	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	これまでに学習した専門知識を活かし、専門職の観点から飼い主啓発をすすめる。 コミュニケーション能力を身につける。				
教育内容	主に受付での飼い主様とのコミュニケーション、社会人としての接遇を学ぶ。				
教科書・教材	動物病院スタッフのための院内コミュニケーション基礎知識編、プリント				
評価法	定期試験、小試験、授業態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	スタッフコミュニケーション①	事務教育	職業人としての身だしなみ、言葉遣い、コミュニケーション能力、報告・連絡・相談の重要性を理解する。
2	スタッフコミュニケーション②	事務教育	職業人としての身だしなみ、言葉遣い、コミュニケーション能力、報告・連絡・相談の重要性を理解する。
3	クライアントコミュニケーション①	ノミ・ダニ	ノミ・ダニを理解し、飼い主様に予防方法を説明できる。
4	クライアントコミュニケーション②	ノミ・ダニ	ノミ・ダニを理解し、飼い主様に予防方法を説明できる。
5	クライアントエデュケーション③	フィラリア	フィラリアを理解し、飼い主様に予防方法を説明できる。
6	クライアントエデュケーション④	投薬	それぞれの薬の形状にあった投薬方法を理解し、飼い主様に投薬方法を説明できる。
7	クライアントエデュケーション⑤	狂犬病	狂犬病を理解し、飼い主様に予防方法を説明できる。
8	クライアントエデュケーション⑥	ワクチン	ワクチンを理解し、飼い主様に予防方法を説明できる。
9	院内業務①	受付	状況に応じた飼い主様対応を理解する。
10	院内業務②	案内	主に診察室での飼い主様とのコミュニケーションについて理解する。
11	院内業務③	電話対応	電話応対を理解する。
12	院内業務④	電話対応	電話応対を理解する。
13	院内業務⑤	クレーム対応	不快感情の顧客心理について理解し、適切な対応を学ぶ。
14	病院内製品知識	管理業務、会計業務	在庫管理、備品管理、顧客管理を理解する。

科目名	動物看護総合演習Ⅰ	履修時期	2年3,4期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	演習	授業単位	2単位	授業時間	50時間
教育目標	動物看護師として必要な知識を復習、総括して理解し、国家試験に合格できる実力を身につける。				
教育内容	国家試験等の過去問等を参考に、必要な知識を復習する。				
教科書・教材	プリント、動物看護師国家資格対策楽しく学べる参考書				
評価法	定期試験、出席率、授業態度				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	解剖生理と疾病	骨格系	骨格系の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
2	解剖生理と疾病	筋肉系	筋肉系の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
3	解剖生理と疾病	脳・神経系	脳･神経系の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
4	解剖生理と疾病	脳・神経系	脳･神経系の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
5	解剖生理と疾病	感覚器系	眼（視覚器）の解剖生理と眼科疾患についての問題を解けるようになる。
6	解剖生理と疾病	感覚器系	その他の感覚器の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
7	解剖生理と疾病	消化器系	歯の解剖生理と歯科疾患についての問題を解けるようになる。
8	解剖生理と疾病	消化器系	胃・腸の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
9	解剖生理と疾病	消化器系	肝臓等､消化器系付属器官の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
10	解剖生理と疾病	循環器系	心臓の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
11	解剖生理と疾病	循環器系	血管､血液の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
12	解剖生理と疾病	呼吸器系	呼吸器系の解剖生理についての問題を解けるようになる。
13	解剖生理と疾病	呼吸器系	呼吸器疾患についての問題を解けるようになる。
14	解剖生理と疾病	泌尿器系	腎泌尿器系の解剖生理とその疾患についての問題を解けるようになる。
15	期末試験		国家試験に準じた5択問題を解けるようになる。

16	解剖生理と疾病	内分泌系	内分泌系の解剖生理についての問題を解けるようになる。
17	解剖生理と疾病	内分泌系	内分泌系の疾患についての問題を解けるようになる。
18	免疫学	基礎免疫学	免疫学の基礎（総論）についての問題を解けるようになる。
19	免疫学	免疫疾患	免疫疾患についての問題を解けるようになる。
20	免疫学	ワクチン	ワクチンについての問題を解けるようになる。
21	感染症	感染症とその治療	各種感染症についての問題を解けるようになる。
22	感染症	感染症とその治療	各種感染症についての問題を解けるようになる。
23	薬理薬剤学	薬理学総論	薬理、薬物動態学についての問題を解けるようになる。
24	薬理薬剤学	薬理学各論	各種薬物についての問題を解けるようになる。
25	薬理薬剤学	薬理学各論	各種薬物についての問題を解けるようになる。
26	外科学	麻酔、周術期	周術期（麻酔）についての問題を解けるようになる。
27	外科学	器具等	周術期（器具等）についての問題を解けるようになる。
28	検査、処置	臨床検査	各種臨床検査についての問題を解けるようになる。
29	検査、処置	処置	各種処置についての問題を解けるようになる。
30	期末試験		

科目名	動物看護総合演習Ⅱ	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	
授業の方法	演習	授業単位	2 単位	授業時間	50 時間
教育目標	国家試験　資格取得				
教育内容	苦手分野の克服 国家試験合格				
教科書・教材	楽しく学べる動物看護　改訂第 2 版				
評価法	定期試験、出席状況				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	国家試験対策	基礎動物看護学Ⅰ	苦手分野を克服し、国家試験合格を目指す
2			
3	国家試験対策	基礎動物看護学Ⅰ	
4			
5	国家試験対策	基礎動物看護学Ⅱ	
6			
7	国家試験対策	基礎動物看護学Ⅱ	
8			
9	国家試験対策	応用動物看護学Ⅰ	
10			
11	国家試験対策	応用動物看護学Ⅰ	
12			
13	国家試験対策	応用動物看護学Ⅱ	
14			

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ	履修時期	2年1期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45時間
教育目標	動物看護師に必要な動物の健康管理や飼育管理に関わるトレーニング技術の習得と、動物が人社会で生活する上で必要となるしつけに関する技術を身につける。また、飼い主からのしつけや飼育に関する質問に答えるための知識と技術を身につける。				
教育内容	動物のハンドリング技術、飼育管理技術、トレーニング方法を学び、動物看護師として飼い主に適切な動物との暮らし方について説明できるようにする。				
教科書・教材	スライド				
評価法	実習中の実技及び筆記テスト、提出物により評価する。				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物飼育管理	日本の飼育状況について	日本の現状について学び、しつけの必要性を知る。
2		飼育管理の基礎	飼育管理に必要な環境設定について学ぶ。
3		動物の習性について	動物の習性を知り、飼育管理に役立てる。
4		ハンドリング	飼育管理に必要なハンドリング技術を身につける。
5	トレーニング手法	動物の学習	馴化、鋭敏化、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて学ぶ。
6			
7		トレーニング	系統的脱感作、反応形成について学ぶ。
8			
9	問題行動	生得的行動と習得的行動	動物の行動原理について学ぶ。
10			
11		問題行動の原因と対処	問題行動の原因と対策方法について学ぶ。
12			
13	飼育管理復習	飼育管理復習	動物飼育管理について復習する。
14			

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ	履修時期	2年2期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45時間
教育目標	動物飼育管理実習Ⅰで習得した基礎知識をふまえて、より詳しく学び実践力を習得する。 動物に対する接触態度から、動物の飼養に至るまで、コンパニオンアニマルの飼養管理全般の応用力を身につける。				
教育内容	動物看護師として飼い主さんに説明・指導できるように伴侶動物についての飼育管理方法と技術を学ぶ。 動物の変化にいち早く気づけるように観察力を養う。				
教科書・教材	プリント				
評価法	出席状況、実習態度、実技試験、定期試験				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1 2	動物飼養管理①	犬猫の適正飼養管理方法	犬猫の適正ついて飼養管理方法についての復習。
3 4	動物飼養管理②	犬猫の適正飼養管理方法	日常ケアについて学び理解する。
5 6	動物飼養管理③	犬猫の適正飼養管理方法	犬猫の飼育で必要になる予防関係について学び理解する。
7 8	動物飼養管理④	グルーミング	グルーミング方法について学び習得する。
9 10	動物飼養管理⑤	保定法①	様々な処置に対応した保定方法を学び習得する。
11 12	動物飼養管理⑥	保定法②	エキゾチックアニマルの保定方法を学び習得する。
13 14	動物飼養管理⑦	投薬法	様々な薬剤に対応した投薬方法を学び習得する。

科目名	動物飼育管理実習Ⅳ	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	学校犬、猫の飼育管理を通して、動物の適正飼養管理を身につける。				
教育内容	飼養動物の適正な飼養管理方法を学び、動物の体調の変化に気づくことのできる観察力と、動物による適正な扱い方を身につける。				
教科書・教材					
評価法	出席状況および積極性、ノート提出、実技試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	学校犬・猫飼育管理	朝・夕の飼育管理	学校犬・猫の飼育管理を通して適正な飼養管理方法を学び、身につける。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

科目名	グルーミング実習Ⅱ	履修時期	2 年 3,4 期	実務経験のある教員科目	
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	犬体の美容法を学ぶことで日常の健康管理に役立てる。 動物病院において必要なグルーミング技術・処置前後の衛生管理に応用させる。				
教育内容	グルーミングを通して犬の気質や犬体そのものを学び、総合的な健康管理ができるようにし、獣医療の場において処置の確実性・時短に繋がる被毛処理ができるようにする。 安全面や、犬の身体的、精神的負担を意識した取り扱いができるようにする。				
教科書・教材	プリント				
評価法	授業態度及び出席状況、実技試験				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	グルーミング実習	作業の確認	全工程を再確認する。
2			
3	講義実習	老犬・幼犬の場合	老犬・幼犬の扱い方を学び、作業を円滑に行う。
4			
5	講義実習	猫のグルーミング	猫の扱い方、グルーミング方法を学ぶ。
6	グルーミング実習		
7	講義実習	立てない犬のグルーミング	障害のある犬の扱い方を説明する。
8			
9	講義実習	飼い主の対応の仕方	オーナーとのコミュニケーションの取り方・接客の仕方。
10	グルーミング実習	技術の習得	犬種・性格・犬の状態に応じた作業を、安全且つスピーディーにできるようになる。
11	グルーミング実習	技術の習得	犬種・性格・犬の状態に応じた作業を、安全且つスピーディーにできるようになる。
12			
13			
14			
15	実技試験		

科目名	動物病院実習Ⅲ	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	動物病院で行われている診療の流れを知る。 動物病院での消毒や清掃を実践することにより、衛生管理の重要性を理解する。				
教育内容	動物病院ではどのような診療が行われているか、動物看護師にはどのような業務があるのかを知り、学問習得への意識を高める。 動物病院の衛生管理法を知り、清掃や消毒・滅菌の重要性や技法を学ぶ。それぞれ 5 日間以上実施。				
教科書・教材					
評価法	病院実習評価表、口頭試問				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物病院実習		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

科目名	動物病院実習Ⅳ	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	動物病院で行われている診療の流れを知る。 動物病院での消毒や清掃を実践することにより、衛生管理の重要性を理解する。				
教育内容	動物病院ではどのような診療が行われているか、動物看護師にはどのような業務があるのかを知り、学問習得への意識を高める。 動物病院の衛生管理法を知り、清掃や消毒・滅菌の重要性や技法を学ぶ。それぞれ 5 日間以上実施。				
教科書・教材					
評価法	病院実習評価表、口頭試問				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物病院実習		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

科目名	応用実験動物学Ⅰ	履修時期	2年	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1単位	授業時間	25時間
教育目標	実験動物2級技術者資格認定試験の合格と実験動物に関する実践的な知識を身につける。				
教育内容	実験動物 2 級技術者資格認定試験は学科試験と実地試験から成り、この両試験に合格することではじめて資格認定されます。本認定試験を受験する方はこの科目を履修しなければなりません。この科目のねらいは、本認定試験の学科試験に合格しうる充分な知識を身に付けることです。講義ではこの目的を達成するために、知識の定着を図ります。また、模擬試験とその解説を実施し、各自の実力の確認を行います。実験動物 2 級技術者資格認定試験対策の勉強はとてもハードなものですが、合格したときの喜びはその分大きなものとなるでしょう。一緒に頑張りましょう。				
教科書・教材	実験動物の技術と応用　入門編（増補改訂版）、基本的な動物の取り扱い				
評価法	定期試験、出席状況、模擬試験結果、資格試験の合否による総合評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	学科試験対策（総論）	動物実験と実験動物	学科試験に必要とされる「動物実験と実験動物」についての知識を身につける。
2		動物福祉	学科試験に必要とされる「動物福祉」についての知識を身につける。
3		解剖と生理	学科試験に必要とされる「解剖と生理」についての知識を身につける。
4		遺伝と育種	学科試験に必要とされる「遺伝と育種」についての知識を身につける。
5		繁殖	学科試験に必要とされる「繁殖」についての知識を身につける。
6		栄養と飼料	学科試験に必要とされる「栄養と飼料」についての知識を身につける。
7		飼育と衛生	学科試験に必要とされる「飼育と衛生」についての知識を身につける。
8		施設と環境	学科試験に必要とされる「施設と環境」についての知識を身につける。
9		労働安全衛生	学科試験に必要とされる「労働安全衛生」についての知識を身につける。
10		疾病と感染	学科試験に必要とされる「疾病と感染」についての知識を身につける。
11		遺伝子改変動物作製技術	学科試験に必要とされる「遺伝子改変動物作製技術」についての知識を身につける。
12		動物実験の基本	学科試験に必要とされる「動物実験の基本」についての知識を身につける。
13	学科試験対策（各論）	マウス、ラット	学科試験に必要とされる「マウス・ラット」についての知識を身につける。
14		その他の齧歯類（ハムスター類、スナネズミ）	学科試験に必要とされる「その他齧歯類」についての知識を身につける。
15	まとめ		

科目名	応用実験動物学Ⅱ	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	実験動物や動物実験に関して幅広い視点から考えられるようになること。				
教育内容	この科目の大きな目的は、実験動物 2 級技術者資格認定試験実地試験に合格しうる知識と技術を身につけることです。また、実際に実験動物技術者として日々仕事をされている方々を講師にお招きしてご教授いただき、社会に出てから役に立つ応用力を身につけてもらいます（対面での実技試験が行われる場合に実施）。実験動物技術者としての実践力を身につけましょう。				
教科書・教材	実験動物の技術と応用　入門編（増補改訂版）、基本的な動物の取り扱い				
評価法	定期試験、出席状況、資格試験の合否による総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	実技試験対策	成熟動物ケージ交換	成熟動物のケージ交換を適切にできるようにする。
2		成熟動物雌雄判別	成熟動物の雌雄判別を間違えずにできるようにする。
3		授乳動物と乳子のケージ交換	授乳動物と乳子のケージ交換を適切にできるようにする。
4		乳子の雌雄判別	乳子の雌雄判別を間違えずにできるようにする。
5		マウス処置馴化法	マウスの処置馴化が短時間で適切にできるようにする。
6		マウス薬剤投与法(1)	マウスの経口投与、腹腔内投与が適切にできるようにする。
7		マウス薬剤投与法(2)	マウスの皮下投与、筋肉内投与が適切にできるようにする。
8		ラット処置馴化法	ラットの処置馴化が短時間で適切にできるようにする。
9		ラット薬剤投与法(1)	ラットの経口投与、腹腔内投与が適切にできるようにする。
10		ラット薬剤投与法(2)	ラットの皮下投与、筋肉内投与が適切にできるようにする。
11	実技筆記試験対策	実験動物用器材の名称と用途	実験動物用器材の名称と用途を覚える。
12		その他	実験動物用器材以外の実技筆記試験に出題される内容を覚える。
13	まとめ	実技試験（模擬試験）	本番で要求される技術を身に付けているかどうかを確認する。
14		実技筆記試験（模擬試験）	本番で要求される知識を身に付けているかどうかを確認する。

科目名	応用実験動物学Ⅰ実習	履修時期	2年	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	実習	授業単位	1単位	授業時間	45時間
教育目標	1年生で学んだ基礎実験動物学実習の技術を基礎とし、その技術の応用と実践を体験する。				
教育内容	この実習の目的は3つあります。1つは、実験動物2級技術者資格認定試験の実技試験に合格しうる技術力を身につけること。2つ目は、将来を見越し、実験動物1級技術者資格認定試験を受験しようとする卒業生がスムーズにその準備に入っていけるようにすること。そして、最も大事な3つ目は、社会人として、実験動物を扱う技術者としての心構えを学ぶことです。この実習は、学校の施設で実現可能な最高の環境で、実験動物業界で活躍している卒業生にも指導を受けながら、実習が進んでいきます。当然のことながら実習はハードなものとなりますが、実験動物に興味のある方にとっては、充実度が高いものになると思っています。また、動物看護コース学生の選択者にも有意義な内容となるように、工夫をしております。				
教科書・教材	実験動物の技術と応用入門編（増補改訂版）、基本的な動物の取り扱い、高度実験動物技術者養成実習テキスト(マウス・ラット・その他齧歯類)、実験動物高度技術者養成研修会実習テキスト(ウサギ)				
評価法	出席状況、授業中に実施する実技試験による総合評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	マウス	処置馴化 薬剤投与法	処置馴化が短時間で適切にできるようになる。 IP、PO、SCがしっかりとできるようになる。
2		尾静脈投与 頸静脈採血	尾静脈投与の手技を覚え、できるようになる。 頸静脈採血の手技を覚え、できるようになる。
3		麻酔剤の計算 麻酔剤の調製	麻酔剤の計算法を適確にできるようになる。 麻酔剤の調製を適確にできるようになる。
4		去勢手術(精管結紮)	外科処置を自ら行い、手術の流れを理解する。
5	ラット	解剖(1)	雄の解剖を行い、雄の生殖器を中心に臓器を確認する。
6		解剖(2)	雌の解剖を行い、雌の生殖器を中心に臓器を確認する。
7		処置馴化 薬剤投与法	処置馴化が短時間で適切にできるようになる。 IP、PO、SCがしっかりとできるようになる。
8		尾静脈投与 頸静脈採血 スメア標本の作製・観察	尾静脈投与の手技を覚え、できるようになる。 頸静脈採血の手技を覚え、できるようになる。 スメア標本を作製して、性周期の判定を行えるようにする。
9	ウサギ	卵巣摘出術	外科処置を自ら行い、手術の流れを理解する。
10		解剖	解剖を行い、ラットの解剖学的特徴を理解する
11		取扱方法 薬剤投与法 気管内挿管	基本的な取扱いができるようになる。 PO、IM、ID、IVがしっかりできるようになる。 気管内挿管を体験する。
12		解剖	解剖を通して、草食動物の体の特徴を理解する。

科目名	応用実験動物学Ⅱ実習	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	○
授業の方法	実習	授業単位	1 単位	授業時間	45 時間
教育目標	1 年生が実験動物の基本的な取扱方法を習得するサポートをすることにより、技術の伝達技術とコミュニケーション能力を磨く。				
教育内容	2 年生が 1 年生の技術指導をする形で、実習が進んでいく。1 年生を担当する 2 年生は固定して、2 年生は責任をもって 1 年生の指導にあたる。				
教科書・教材	実験動物の技術と応用　入門編（増補改訂版）、基本的な動物の取扱い				
評価法	定期テスト、出席状況による総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	動物の基本的取扱い	個体識別法･尿検査･体重測定	マウスに触れ、個体識別法、体重測定法、尿検査法を経験する。
2		処置馴化、保定、薬剤投与法(1)	マウスの処置馴化、保定法、薬剤投与法(IP･SC)を経験する。
3		薬剤投与法(2)	マウスへの薬剤投与法(IP･SC･PO)を経験する。
4		薬剤投与法(3)	マウスへの薬剤投与法(IP･SC･PO･IV)を経験する。
5		薬剤投与法実技試験	マウスへの薬剤投与法の実技試験で、自分の技術を確認する。
6		馴化、保定、薬剤投与法(1)	ラットの処置馴化、保定法、薬剤投与法(IP･SC･PO)を経験する。
7		薬剤投与法(2)	ラットへの薬剤投与法(IP･SC･PO)を経験する。
8	手術法	麻酔薬の調製法、麻酔の観察	麻酔薬の調製法を理解する。また、動物に麻酔をかけ、麻酔状態を観察する。
9		縫合と結紮、採血法	縫合と結紮を経験する。心臓採血(全採血)の練習をする。
10		手術	マウス脾臓摘出術を経験する。
11		全採血と解剖	マウスの全採血を経験する。動物の体のしくみを理解する。
12	標本の観察	血液塗抹標本の作製、Ht 測定	血液塗抹法･染色法を習得するとともに、Ht 測定を行う。
13		血液塗抹標本の観察	血液塗抹標本を観察して、血液細胞の形態の基礎を理解する。
14		組織標本の観察	組織標本を観察して、各種臓器の特徴について理解する。

科目名	放射線概論	履修時期	2 年	実務経験のある教員科目	
授業の方法	講義	授業単位	1 単位	授業時間	25 時間
教育目標	第 2 種放射線取扱主任者の試験に合格する基礎知識を修得する。				
教育内容	第 2 種放射線取扱主任者に合格するため、過去問題を演習問題として事前に解答してもらう。授業ではそれをもとに問題の解説を行う。また、これらの重要ポイントについて、整理して理解することを促す。				
教科書・教材	初級放射線、放射線障害の防止に関する法令概説と要点、プリント等を使用				
評価法	定期試験、授業時間内の演習解答状況、出席状況、授業への参加度				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容（シラバス）

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	物理学のうち放射線に関する課目	物理学問題演習（1）	物理学のうち放射線に関する課目の問題解説
2		物理学問題演習（2）	物理学のうち放射線に関する課目の問題解説
3		物理学問題演習（3）	物理学のうち放射線に関する課目の問題解説
4	化学のうち放射線に関する課目	化学問題演習（1）	化学のうち放射線に関する課目の問題解説
5		化学問題演習（2）	化学のうち放射線に関する課目の問題解説
6		化学問題演習（3）	化学のうち放射線に関する課目の問題解説
7	生物学のうち放射線に関する課目	生物学問題演習（1）	生物学のうち放射線に関する課目の問題解説
8		生物学問題演習（2）	生物学のうち放射線に関する課目の問題解説
9		生物学問題演習（3）	生物学のうち放射線に関する課目の問題解説
10	実務に関する課目	実務問題演習（1）	実務に関する課目の問題解説
11		実務問題演習（2）	実務に関する課目の問題解説
12		実務問題演習（3）	実務に関する課目の問題解説
13	法律に関する課目	法令問題演習（1）	法律に関する課目の問題解説
14		法令問題演習（2）	法律に関する課目の問題解説